始

序

親友花曉君福引の書を携へて來る。閲見するに、一々是れ抱腹、再讀更に絶倒を禁ずること能はず、新年早々より此福はそも何人のポツケットに入るや、識らず笑へ、笑は百藥の長、笑ふ門には福來る、笑なる哉福來るの術!!

隅田川のかたほとりにて

茶樂齋主人

44.2.13

はしがき

口程にもない福引かと、讀者諸子よりおこゞとのたこの小耳にうじや〳〵と、出來るつらさもかへりみず、節季にせまつて自働者もよろしさほどの車輪にて、古文庫からとりあつめ、蔚新、陳腐、附會や、重複、杜撰のけじめなく、やう〳〵まとめし寶の福引!!! 鬼が出るか蛇が出るか、千里眼ならいざ知らず、今から豫言はおあづかり、末の開くをおたのしみに、緣起を祝ふ新玉のお買初の御祝儀におもとめあつて現世のたからとふくとを引き給へかし。

花曉小史しるす

目次

一、春の卷……一
一、夏の卷……五
一、秋の卷……九
一、冬の卷……一三
一、家庭の卷……一四
一、ハイカラの卷……一七
一、文房具の卷……二〇
一、學事の卷……二四
一、飲食物の卷……二八
一、演藝の卷……三二
一、空籤の卷……三五
一、雜籤の卷……三八

新式抱腹絶倒福引大全

花暁小史編

春の巻

1 恭賀新年
2 お正月は
3 新春の餘興
4 幹事曰く今日の福引は
5 かるたの秘訣
6 おかざり
7 正月七日の御祝儀
8 お屠蘇をのむと
9 いかのぼり＝或はたこ
10 かるた税
11 羽子板
12 つゝみの音がポン〳〵

13 かみまでが喜んで御祝儀をいひます
14 初荷の馬
15 春の夕ぐれ
16 さすが正月下女まで顔が
17 春の野遊
18 春の新道
19 ささらぎの花
20 春景色ういて
21 春雨
22 梅見に行つて雨にあひ
23 日本のさくら
24 お花見の下座
25 花より
26 吉野の花は
27 若草春雨に逢ふと
28 谷間のうぐひす
29 坊のおもちや
30 卯の花くだし

31 春の芝居見物
32 絲目のないたこ
33 龜井戸の花
34 春の夜の月
35 可憐の花束
36 春の海ひねもすのたり〳〵かな
37 菜の花
38 恬淡なるさくら花
39 梅花膏
40 東風を外に何といひますか
41 鶯宿梅は
42 春のあけぼの
43 花のかんばせ月のぉ
44 春風
45 春のたび
46 お茶屋の二階
47 鶯はお正月御祝儀に何をたべますか
48 貞女の寒詣

49 鶯のかさ
50 春のたより

いつはりと知れどわが子のさとしさに
財布をあける親心かな。

つくづくとさだめしのびし寄宿舎の
窓に年くる女教員かな

1 夏衣
2 五月
3 夏の一日
4 五月雨を外に何といひますか
5 さみだれの空
6 血になく一聲
7 五月五日
8 夏の炎天
9 ひるね
10 夏の雷雨
11 夕立がすると
12 納涼
13 洗濯になければならないものは？
14 あついさかりは
15 夏障紙

16 いかにあつくても
17 月の逆射
18 蚊軍征伐隊
19 河の月清く
20 夏財布
21 避暑の目的
22 夏の夕くれは
23 旅行
24 旅行者の桑
25 旅行をする
26 海水浴
27 海にはいるとからだが
28 水衣
29 褌一點
30 游泳をすると
31 河童流
32 夕ぐれや夢おどろかす魚賣
33 夏の一杯

34 夏を忘れて涼しきものは？
35 箱根のなつ
36 水と火のくるしみ
37 ひるねの虎の卷
38 飲でも酔はぬ夏ビール
39 蟬の聲
40 旅人のしばし休らふ隙もなくやがて晴れ
41 行く野路の x
42 夏の夜
43 山中の清水
44 瀑布
45 夏の大風
46 松ふくかぜ
47 氷をみると
48 夏休は
49 日光の名瀑
50 夏休みは僕も
夏の月

下心あつてのそれか今日はまた
あやしきまでにお行儀のよき。

日躍日心こめたるわが妻の
家庭料理に舌打をする。

1 立秋
2 秋の紅葉
3 秋の野山
4 秋の夕くれ
5 信濃の名月
6 秋の夜
7 大暴風の夜
8 野分のあした
9 秋の花園
10 秋の心配氣を
11 秋の草の色
12 秋風
13 重陽の御祝儀
14 まがきの花
15 親しむべきは

16 たつたがは
17 時雨
18 手をこまぬいて
19 秋時分は洗濯に石鹸をつかつてはいけませんね
20 秋のかすみ
21 彼岸の贈答
22 お彼岸のくばりものは
23 千々にくだくる秋夜の默想
24 秋の晩鐘
25 考へこむと○○します
26 いろ〳〵珍しい話を
27 團子坂園技館
28 秋の夜風
29 秋分
30 丹誠こめし籬の菊
31 秋の一日
32 日比谷の秋

33 秋の錦
34 秋菫
35 彼岸櫻
36 秋の雨
37 秋の空を何にたとへますか
38 小春日和
39 出雲の十月
40 秋の田
41 秋の農家
42 雨模樣
43 秋の蚊遣火
44 あらしの庭
45 嵐雪の理想
46 老人の秋の夜
47 墓所の秋

優等で家政科いでし先生が
ホームのそれにさめ〳〵ざなく。
嚴然と家政とかるゝ先生の
ホームわびしく秋風のふく。

冬の巻

1 冬になつて戀ひしいものは
2 樂隱居は冬でも
3 雪
4 輕便懷中暖爐
5 冬の日
6 冬の夜
7 ストーブ會議
8 冬の茶室
9 姉さんはお炬燵で
10 冬の團欒
11 冬の朝
12 冬の夜のつき
13 寒天の裸體
14 にくゝなるものは
15 氷のフライ

16 ひゞのくすり
17 下女の指
28 冬夜の用心
19 火の番の下座
20 冬こはいものは
21 冬の北風
22 晩方になると
23 十二月
24 年の市
25 大晦日

理論ではなか〳〵ゆかぬしほからき
家庭料理によはりもどする
ゆく〳〵は左團扇のたれすもと
血のでる金で稽古所へやる。

家庭の巻

1 家庭教育
2 ハッピーホーム
3 親の心
4 兄弟同士の心
5 親につかふる心がけ
6 家庭ゲーム
7 家庭の虎卷
8 夫婦
9 百行のもとは
10 初物は先祖に
11 おさゝひの情誼
12 しうとめ
13 嫁のこゝろ
14 よめとしうとめ心を合すと
15 夫とつま
16 をんなの操

17 親の意見は
18 親族同士
19 不孝者にやりたいものは
20 親の恩
21 夫の留守番
22 女のおとうと
23 切つて切れぬ親類筋
24 佛間に合掌して
25 叱言
26 母子
27 母のあざ名
28 みもち
29 安産のおまもり
30 遺族の家庭
31 ふるさとのつゝ
32 睦しい夫婦
33 人倫の本
34 極初の教育

35 夫婦のえにし
36 父は
37 天眞爛漫
38 小供は夫婦の
39 アンゼルの樣な子どもは
40 うつくしきホームには浪たゝず
41 小供のもり
42 小兒の馬
43 親は小供のためには
44 一人娘の母親
45 幼稚園の學科
46 おばさんごつこ
47 坊にも弟は澤山ありますよどんな
48 小兒の慰籍者
49 とほくの父上
50 異腹の子ども
俸給日かへりはいつも千鳥足
つまのなき身の心やすけれ。
さなきだにおつくりなして女房が
酒買つて待つ俸給日かな。

ハイカラの巻

1 ハイカラ紳士
2 ハイカラ演說
3 ハイカラの早取寫眞
4 マリードの夜
5 ハイカラは水をこのむ
6 裏店のハイカラ令嬢
7 ハイカラのとらの卷
8 虛榮心
9 うはきの式部
10 ノワの出水
11 ハイカラ無一物
12 おみやげに一枝
13 性質あしき式部
14 ハイカラはナゼ梅香を好むか？
15 ハイカラバード（High-collwr bird）
16 グワストー

17 ハイカラ六人脊中合せ
18 ハイカラの十八番
19 現今の才子
20 ハイカラ夫婦のホネームーン
21 ハイカラの高足駄
22 ハイカラの内幕
23 ハイカラの乘物
24 ハイカラ學生
25 ハイカラ女學生の英語
56 王子のハイカテ女工
27 ハイカラ文士の理想
28 ハイカラ女房はハスバンドを
29 ハイカラの特徴
30 ハイカラの仲裁人
31 ハイカラ集合
32 ハイカラ色香
33 ハイカラ洗面の第一は
34 疎忽のハイカラ

35 ハイカラの長競離レース
36 ハイカラ言語
37 ハイカラ紳士の借金
38 密告
39 さなきだにヅデッカイハイカラ
40 ハイカラリズム
41 The king of Flower
42 お臼式部に迫かけられてさすがそれ者も
43 容色不美の式部
44 ハイカラ才子
45 内氣のハイカラ
46 ヅルイハイカラ
47 ハイカラ紳士秘藏の破鐘
48 ハイカラの鼻つぱり
49 ハイカラの面を見ると何にも
50 ハイカラの面の皮

つとめ服ぬいで寛ろぐ夕暮や
すゝる澁茶の千金の味。
和製にはあれどバナナのうれしさに
かぶつて見ては姿見に行く。

文房具の巻

文房具の巻は籤をつくるかたの御便利を計つて景品から先にのべることにしました、題と説明とはのちのページにくわしくありますから、ついて御覧下さいまし。

1 雑記帳
2 半紙六枚
3 ペン三本
4 ゴム
5 筆
6 筆
7 筆
8 筆
9 筆
10 鉛筆
11 鉛筆
12 鉛筆

13 色鉛筆
14 筆洗
12 インキ
16 インキ
17 封筒
18 絵はがき
19 駿河半紙
20 白紙
21 半紙
22 白紙
23 墨
24 墨
25 水入
26 硯
27 罫紙
28 日記帳
29 唐紙
30 筆筒

31 書物
32 筆と墨
33 ペンヂク
34 唐紙
35 色紙
36 ペン入
37 机
38 ナイフ
39 珠盤
40 西洋紙
41 西洋紙
42 西洋紙
43 本立
44 とりのこ紙
45 しをり
46 半切
47 狀袋
48 繪具（赤色）

49 錐
50 卷紙

ここしへにさびしくれむる無緣塚
住持も經を義務的によむ。

卒叢し早や近きしこのごろや
勝手氣儘は理想ならべる。

學事の巻

1 初等教育
2 教の庭
3 先生
4 先生の御恩
5 普通教育
6 學問をなすには
7 最高の學府
8 勤勉の學生
9 小學校の先生は生徒に
10 幼稚園
11 女學生のしるし
12 先生の訓諭
13 生意氣の學生
14 怠情
15 日課點
16 入學試驗

17 試驗場
18 問題の出るまでは實に
19 不勉強の學生は
20 良教師の採點法
21 試驗もすんで一先づ
22 試驗の翌日
23 成績發表
24 勤勉生徒の成績
25 勤勉の報
26 怠惰のむくひ
27 教員養成所
28 下讀の虎の巻
29 學生は
30 艱難汝を
31 天性愚鈍でも勉強すれば○○しませう
32 ヅルイ學生たくみに
33 遅刻生徒のいひわけ
34 お轉婆式部

35 なまけものゝ理想
36 困難の問題は實に
37 勉強は幸福の
38 高等商業學校
39 海軍兵學校
40 意見は身に
41 無學の學校
42 ずう〳〵しい學生
43 不勉強では後に
44 親の意見も
45 男子のいましめ
46 寄宿舍のがい
47 學生の懷中ストーブ
48 學生のたゝかひ
49 勤勉なるものは何事にも
50 勞苦は
51 帝國大學を首尾よく卒業して
52 スカンピン

53 學校の小使
54 學問をなすにも
55 詩人文士小說家となり
56 同級會
57 苦學生の泣言
58 君理科は
59 夜間勉强所
60 苦しんで學問す
61 大學院を卒業すれば
62 仕事の先生は
63 放蕩の極身を
64 內氣の學生
65 藹然舍の敎育主義

先生といはれる程の馬鹿となり
白髮はやして桃太郎やる。
疲れ足引きづりながら箱根路や
生徒のともはつらいものなり

飲食物の巻

くじをつくるかたの御便利をはかつて、趣向をかへ、こゝには景品をかきあげました題と解は後のページを御参考下さい

1 鰹節
2 鰹節
3 八つがしら
4 煎餅
5 正宗
6 酒
7 菓子
8 白米
9 米
10 白米
11 するめ
12 ねぎ
13 章魚

14 カステラ
15 ラッキャウ
16 香物
17 こんにやく
18 もり（蕎麥）
19 かけ
20 しほ
21 人參
22 南蠻
23 おかめそば
24 からし
25 胡椒
26 のり
27 燒芋
28 奈良漬
29 澤庵
30 豆
31 パン

32 麩
33 餅
34 島田湯婆
35 いはおこし
36 ドロップ
37 もなか
38 水
39 茶
40 葡萄酒
41 まがたま
42 ぼたもち
43 松風
44 みやこどり（菓子）
45 花の露（菓子）
46 三笠山（菓子）
47 菓子折
48 なほし（酒類）
49 調布

50 紅梅燒

たしなみをわすれけちじな小式部が
湯巻一つで水泳する。
はしためが忘れてしめし物干に
赤き湯巻の皎々とてる。

演藝の巻

1 劇場
2 歌舞伎の花
3 佐倉宗五郎
4 新俳優川上音二郎
5 帝國劇場の開場式は
6 劇のことば
7 正劇の親玉
8 馬の足
9 十八番
10 菊五郎の紋
11 平土間
12 高土間
13 菊五郎の舞臺藝
14 上手役者は直に名人になるには
15 市川團藏の藝
16

17 十八番の暫
18 芝翫の呼名
19 中村芝翫の幼名
20 市川左團次の十八番、出世狂言
21 イヨー大文字
22 文士劇
23 芝居見巧者（芝居通）
24 芝居の幕開
25 素人役者の舞臺
26 才三の情婦
27 道成寺
28 お輕のいゝ人
29 勘平の島原がよひ
30 板額のハスバンド
31 朝比奈三郎の母
32 岩藤のおまもり
33 まむしの次郎吉
34 苅萱道心筑紫の？

35 立廻りの合方
36 幇間
37 辨慶の計略
38 上手の落語
39 有名の太夫二人
40 終りの出演者
41 和楓の十八番
42 扇歌の音曲
43 講釋師の虎の卷
44 近來流行の音曲
45 三遊亭圓遊の夏嬌
46 義太夫
47 備後三郎
48 長唄の家元
49 役者ののろけばなし
50 岩井粂三郎

よしや花ボートレースもよかめれど
われには一人言問のよき。
通信簿こは〳〵開く小式部の
小さき胸にさゞなみのうつ。

空籤の卷

感情を害すといへばそれまでゞすが、空くじも時にとつてはなか〳〵面白いものです空くじは已に各の卷や雜籤の卷に入れておきましたから、こゝにことさら申しのべる必要もありませんが、各部門にもれたのや更に思ひついたことゞもを改めて少しばかりのせることにしました。

之れは本の老婆心にすぎませんが、空くじをひいておこつたり慾張心を出してがや〳〵騷ぎ出すのは、絶對的の禁物でございます、だから催主が人員に應じてくじを作る時には前以て慰籤として＝からくじの分だけ＝餘計に作つておいて、空くじをひいた人には、別に一本づゝおひかせになるのがよろしうございます。

1 浦島の玉手箱

2 昔の榮華も今は
3 まづい辯護士
4 百日の說法
5 わたしばのあらし
6 洋裝の貴重品
7 親の苦心も
8 雪山の雪
9 敵人に饗應したいものは
10 佛のおすがた
11 世界中で一番安いものは
12 能狂言のをはり
13 病氣全快
14 遠方御苦勞
15 行きあたり
16 破れ障紙
17 書にかいた餅
18 卵から君としろみをとれば
19 二頭おふ者は

20 慾ばるとあべこべに
21 空中樓閣富貴掌握立身出世
22 百萬圓の寄附
23 紅梅の花の色
24 ゼンソク患者の特徴
35 不老不死リッチのくすり

この願かなへてたとべ小夜ふけて
悲劇の貞女お百度をふむ。

餓雨せうごとなしにとびこめば
南無三これは借のある家。

雜籤の卷

1 朝鮮
2 板橋の料理屋
3 本會の決議
4 立派なおやしき
5 砂糖やの前を自働車で通りぬけ
6 自働車
7 電車
8 かなやホテル
9 對面の位置
10 パンの副物
11 十年以前
12 種痘
13 總笑醫
14 不景氣の結果品物は
15 本年の出水
16 華族の大忠臣

17 曾我兄弟
18 肺病患者の特症
19 南極探險
20 蝙蝠の理想
21 下郎の筆
22 小兒の慰籍者
23 薄命の美人
24 頭痛の妙藥
25 いくらたべてもたまらぬものは
26 馬琴の理想
27 江戸時代の大學者
28 二十山の前名
29 てうづにいつたらこれで
30 上前をとる
21 犢鼻褌を二分すれば何が出來ますか
32 煽動者の十八番
33 富貴一つかみ
34 がまぐちの材料

35 家屋の頂上は何ですか
36 書物
37 妾も
38 五尺にたりぬ小男
39 今の士族は
40 魚の肉は
41 おまむり
42 農家の火鉢
43 女犯
44 蠶の死骸
45 佛國のみやこ
46 藤原氏の氏神
47 江戸時代に流行した俗謠
48 足利義滿の別莊
49 足利義政の別莊
50 とみの秘訣
51 神棚の番人
52 借金のいひわけ

53 國賊退治の一人
54 ガリバの太刀
55 狐のおなら
56 痔持の尻もち
57 詩を作る人
58 本所四つ目のてまへ
59 南部支那人の健康
60 土藏の要所
61 お湯の中に筆を入れると何ができますか
62 裾野の英雄
63 年期小僧
64 味噌すり坊主も
65 印刷屋の小僧
66 ボーイ（給仕）
67 玄關番のつね
68 貧家の小供はいつでも
69 又例の叱言かね
70 ずう〳〵しい下女

71 きのきいた利發もの
72 放蕩息子
73 高等官になれば兩親の鼻まで
74 按摩となり
75 新婚披露
76 華族に列せられ
77 身代限
78 上流社會の人は
79 初產
80 昔の困難を
81 引き越しの最中
82 御祝儀
83 ふところ具合も
84 モット財產をふやすには
85 之れもミンナ
86 次官に昇れば
87 首相
88 陸軍大尉

89 國の花
90 交際社會のゲーム
91 人間はいかなる場合でも
92 慶安太平記の原因
93 赤兒の馬
94 トラフアルガーのネルソン
95 お座敷合戰の武器
96 かういふ不景氣では早晩
97 花川戸助六
98 月が瀨の梅
99 戀の辻うら
100 うくひすも餅をくふ
101 身投
102 廓ことば
103 むかしの中間
104 おかめころんで鼻ぶたず
105 天狗の鉢合せ
106 賣卜者

107 植物一つ
108 五の福
109 古の流罪地
110 海邊の草
111 馬のしりがひ
112 大事をなすには
113 律氣の人
114 この機械で油を
115 カラーの半分
116 絶世の美男
117 としよりの咳
118 マリードは人間の
119 自働車にひかれて
120 酔どれの義士
121 囚人の衣裳
122 ベースボールの仕合
123 盲人の放尿
124 禿頭病

125 琵琶の音色
126 琵琶の一番いゝ音色は
127 日記帳
128 現今の商人
129 神功皇后
130 たいくつ
131 まけいくさ
132 つまつた公園
133 米人曰く私はあなたを知て居こす
134 論語よみの論語
135 健啖家
136 梅の名所
137 スリの時計
138 六魂清淨
139 かひこの命
140 貧民をめぐむは
141 品川の名產
142 君のくるのを遲くまで

143 眼科醫院
144 うまいケークは非常に
145 花のかんばせ月のお
146 芝居の囃方
147 吉原の廓
148 北廓
149 禿筆
150 マネー
151 自由
152 赤兒の歩行
153 河原
154 坊はおとなしくお座り
155 笑はれて恥を
156 けんつく
157 賣國奴
155 束の間
159 人を助けるのは
160 猫の冠

161 やかん頭
162 取り上げ婆
163 うんこのにほひ
164 金魚の餌
165 ジャンコの掃除道具
166 六千四の平方根をとふ
167 社前に鈴ふりて
168 わしとお前はいつでも向ひあひ
169 うでをこまぬいて……思案をし
170 千里の道も
171 うらじほ艦隊
172 恪氣の夫婦
173 バルチック艦隊
174 象の睾丸
175 大事のあづかり物が紛失して
176 小人島のしゆろの木
177 癲病者の試驗
178 おやビックリしました何か出ましたよ

179 裸體畫
180 啞の演說
181 狐のはらだいこ
182 未來のワイフ
183 さけくせの惡るい人
184 衣服のえりのところ
185 ナゼ貴樣はそんなこゝをとげ／＼しい美人
186 馬鹿に湯があついから
187 けちのおやぢ
188 娼妓の食事
189 ワッとおどかされ
190 忍ぶ戀路はさてはかなさよ
191 田舍のWC
192 かつぽれ
193 君の顏は新駒屋の樣だね
194 名筆の一人
195 チョンマゲ老爺の元服
196

197 神樣の逆立
198 卒倒病の妙療法
199 襤褸の紹羽織
200 くじらの呼吸
201 石川縣
202 支那人はぢきに
203 開業ドクトル
204 敵彈にたほるゝいまはの一聲
205 朝ねすがた
206 金釘流
207 東と西と南
208 人目の代理者
209 三十六計
210 西藏高原
211 質屋
212 なきがほに
213 きりつけられて血しほ
214 日本の文字

215 嫁御寮の持参道具
216 馬鹿者ときいていやはや
217 凌雲閣
218 露人のはな
219 丈夫の金庫
220 屁の漬物
221 暗夜のガイド
222 僕のすきな人は
223 水天宮のお札
224 大本營
225 色このまぬをとこ
226 人氣の辯護士
227 宿場女郎
228 祖先から
229 動物園の人氣物
230 忍び笑
231 つかれた時はどうしたらいゝでせう？
232 節分の御祝儀

233 ソンナまちがひは
234 古代の九州
235 百姓喧嘩の原因
236 君がかへればとりがなく
237 婦人の十八番
238 八百やの化物
239 貧乏人はいつも
240 ダイヤモンドは誰しも
241 死人に
242 光秀の涙
243 谷間のさくら
244 幼童の唱歌
245 君のおもかげ
246 陽氣のいゝ時季
247 太公望
248 アレキシーフの面の皮
249 出征軍人の心得
250 敷島の法律

251 美人のジャンコ
252 國に盗賊家に
253 武夫の帽子
254 膾は酢でもて男は
255 仁徳天皇のみやこ
256 片かなの作者
257 畑中の美人
258 畑の化粧
259 身長
260 内通者
261 小遣は忘れない内に早く
262 めざまし時計
263 いやな世の中
264 日光のおたまや
265 奈良の大佛様の鼻糞
266 豐臣秀頼
267 馬鹿者
268 あつまり

269 尾のないいもり
270 傀儡師の箱
271 ラブシック
272 立廻りの名人はだれでした
273 觀世音
274 三人の智慧
275 下野の高山
276 柔術の極意
277 富士山をさし上げます
278 皮の化物
279 月に風情の
280 ポールのかたき
281 牛の小便
282 伊勢やの主人
283 無用物
284 祭禮の花
285 花車
286 十の五乗の反數は

287 關西地方
288 若い者同志の戀中
289 大福長者
290 護身の靈符
291 千代田の城
292 ペストの媒介人
293 不正行爲
294 ワットおどかされ
295 先生の先生
296 小野小町、楊貴妃、クレオパトラ
297 染物屋の虎卷
298 この汁は
299 有難い命
300 日本の名花
301 平均は？
302 心理學
303 昔の一萬圓
304 平家のかたき

305 交際家
306 海中の寶玉
307 旅行中金をすられて
308 なみかせ
309 交換手の返事
310 增上寺の所在地
311 僧侶の術
312 小說のつゞきもの
313 寢さめがほ
314 身に毒あつて皮に能あり
315 しらせ
316 夏もやう〳〵
317 うはきむすめ
318 無理は
319 本會の壽命
320 馬の耳に東風
321 鵞大學を首尾よく卒業すれば
322 艱難の洋行

323 赤馬車（レッドコード）
324 義士の仇討も
325 早稲田の老伯
326 戰時弱國軍人の所持品
327 いろは四十七文字
328 古今未曾有の横綱
329 明治の兩刀
330 出雲の大社
331 木々の茂み
332 露人の胸中
333 車夫のかけごゑ
334 吾妻橋と兩國橋の中間は？
335 關東地方
336 神田で一番名高い橋は
337 一番口の大きい魚は何でせう？
338 健啖家のマウス
339 戰捷の報告
340 新聞はお客をそらさず

341 九（ナイン）
342 馬鹿もの
343 東京は現今日本の
344 仲裁人のつとめ
345 虎病の特症
346 浪子の顔色
347 お通夜
348 日本海の劇戰
349 西洋の銘酒
350 豫想
351 神殿
352 妙なくしやみが出ましたぬ
353 大黒天
354 隱居植物
355 高度の望遠鏡
356 唐土のきび
357 ポートアウサーの戰
358 露國の軍隊

359 戰にまけて
360 八島艦
361 手足まとひにしんこうかけたら
362 地震
363 支那帝國の轉覆
364 火事
365 地震雷火事
366 野猿坊
367 爲朝は爲義の
368 赤穗義士の親玉
369 あつたかいけもの
370 魚を錐にてさせば
371 名代のしるこや
372 おやすくないなか
373 千里眼
374 今も昔も
375 おくらをあげませう
376 中の皮

377 天からおちる甘いみづ
378 八里たどつてまだ一里
379 燈火の命
380 水に月
381 いやなものは
382 近江八景一つを進上します
383 經鳥
384 富缶の雪
385 雨が降らうとすれば
386 貧乏人はいつも
387 まゝごとの帶
388 紙にて祝ふ千年の壽
389 米相場
390 伊勢へ參詣したら
391 きのきいた人は
392 今日のお土産に臺所道具一つ差し上げませう
393 家屋のいたゞき

394 事件
395 本所の名橋
396 暑中
397 勞咳
398 上方藝者
399 世界の史家
400 ハワイのおみやげ
401 支那の學者
402 いかに馬鹿でも
403 餅つき道具
404 お手本
405 公卿上達部
406 身投のこはいろ
407 交渉問題
408 おたな
409 帝國ホテル
410 本局の一番
411 スモールガーデン

412 古今の名奉行
413 文のうみ
414 世界の識者
415 廉價
416 惡るい風には
417 ローマのホーマー
418 癇癪持
419 唾液
420 知らぬが
421 氣轉をきかす
422 波風
423 豫想の計畫
424 かよわいいろくさ
425 廣島の名產
426 興奮劑
427 くびの廻らぬみそかを
428 小兒の手ひら
429 人の精神

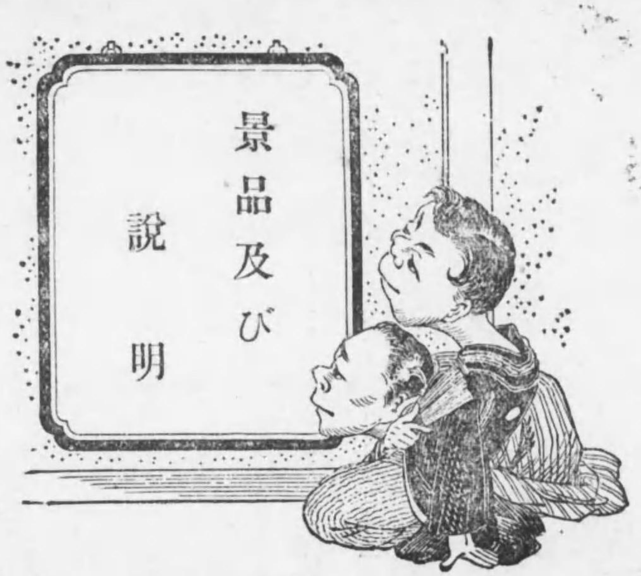
430 神酒
431 色官
432 お留守なら
433 抜群のてから
434 さくらの中でも
435 機
436 四疊半の火鉢
437 之れは輕少
438 病人のめし
439 奥さん
440 おみやげ
441 たからものやおかね
442 まだ五時だから行くには
443 餅細工
444 汗搔人
445 はしることを何といひますか
446 おやこの鈴は何かを見ます
447 人の心はなか〳〵それと

448 おいしい野菜
449 側用人
450 つかれたから電車に
451 人を馬鹿にする
452 福の神一つ
453 聖人が出さうです
454 消火器
455 挫いた手
456 米の水
457 圖書藏所
458 手くだで金を
459 むかつぱら
460 無一物
461 瓦斯燈
462 大欲は
463 死骸
464 毛生ぐすり
465 顔の造作中で中央に

466 小供俳優
467 細な仕事
468 石部金吉金兜
469 好い景物は
470 觀世音の所在地
471 日なしかし
472 〻〻おやつに
473 けちんぼうのアイスクリーム
474 道行く人をうしろより
475 必らず〳〵男子にかぎる
476 參勤交代
477 すべた女
478 非常の經濟家
479 北米の都
480 錢湯に程よくはいる心得
481 浮氣者がなでると
482 赤裸のヒーロー
483 巴御前の武器

484 鬼の下駄
485 菜の花に
486 西郷隆盛
487 たいくつ
488 十郎のヤングブラザー
489 恪氣の奥様
490 終夜いねられずしてとう〳〵
491 三景一つ
492 松のみさを
493 大砲の彈か
494 祖先傳來の武器
495 〻〻デッキ
496 風邪をひくとちきに
497 廓に遊ぶ
498 才士
499 裏店の女房
500 福引大會

勉強は朝に限ると村ぎ子
ゆめぢながらに下調する。
げに夏は此にかぎると村夫子
奴豆腐でせうちうなのむ。



目次

一、春の卷……六九
一、夏の卷……七八
一、秋の卷……八六
一、冬の卷……九四
一、家庭の卷……九九
一、ハイカラの卷……一〇九
一、文房具の卷……一一九
一、學事の卷……一二六
一、飲食物の卷……一三八
一、演藝の卷……一四六
一、空籤の卷……一五五
一、雜籤の卷……一六一

春の卷

1 鶴と龜(玩具)かさもなくばめでたきものなれば何にてもよし。

(說) おめでたうございます。

2 マッチ十箇

(說) 私の樣にいゝ年になつても、やはり、坊樣や孃樣がたの樣にマチどう、＝待ち遠ふでございます。

3 服引＝福引

幹事或は說明者は當籤者の袖を引くべし

4 筆と木　不出來

(說) 誠に不出來でございます。

5 百人一首取り方の秘訣(書物)大學館發行のものに三種あります)

(說) 秘訣はこの中にあります。

6 松と竹

（説）お正月は松と竹とをたてゝ祝ひます。

7 草を七つ出すべし

（説）なゝくさを祝ひますから之れをお粥に入れてめし上れ。

8 赤き心のある鉛筆

（説）この通り赤くでます。

9 寒暖計

（説）上つたり下たりします。

10 鼻止め眼鏡

説明者は景品の眼鏡をわざと鼻にかけ

（説）この通りはなにかゝります、と説明すべし。

11 美男の寫眞

（説）をんながつき廻ります

12 萬歳の繪はがき

（説）あのつゞみのおとは萬歳がきたしらせです。

13 はがき

（説）この紙は實に便利でものをいひます。

14 美しき繪

（説）いつもは、きたない馬も今日に限つてはこの通り、うつくしく飾つて出ます。

15 くれさうでくれない＝景品なし

説明者はサモ景品を出しさうに＝思はせぶりをしながら。

（説）くれさうでくれません。

16 赤色インク、或は紅

（説）赤うございます。

17 花（鼻）をつむ

説明者は當籤者のはなをつまみながら面白く説明すべし。

18 笛、或はおしやぶり

（説）何となく賑でさはがしう御座いま

す。

19 梅

（説）之れは皆さん御承知のきさらぎ（舊二月）にさく梅の花で御座います。

20 玩具の鷗三箇

（説）之れはみなさん清元梅の春の文句で＝少しふしをつけながらうたいてかもめの一イ二ウ三イいつかあづまへつくばねの……と説明しながら三つ出すべし。

21 インキ

（説）何となく陰氣です。

22 梅びしほ

（説）梅見に行つて雨に逢へばこれがほんとに梅びつしより、つまつて梅、びし、ほ

23 花いろ＝うら地反物

（説）花色がようございます。

24 口三味線

（説）お花見の下座は口三味線が結構です、この様にやれば……とて何かうたふべし。

25 團子

（説）之れは僕の説明を待たずに御承知のことゝ存じます。

さゝら、或は茶筌

（説）一目千本の眺めです

26 マッチ

（説）すぐに萠え＝燃え＝出します。

27 インシ（印紙）

（説）はるを待ちます。

28 章魚

（説）お正月はたこにかぎります。

29 豆腐のからを出し少しばかり降らす＝こぼすべし。

30

(説) 之れが卯の花下しです。

31 のぞきめがね

(説) 方々の芝居があきますから、一々見ては居られません、チョイ〳〵おつな幕をのぞくのが妙です。

32 あげられぬ＝景品なし

説明者は思はせぶりに當籤者をよびだしながら、(説) 折角おいでになつたのだからあげたいのですが、絲目がありませんからいくらあげたくもあげられません、ホントにお氣の毒様。

33 麩四箇　麩四＝藤

(説) 之れは龜井戸名物のくずもちではない、オットふぢで御座います。

34 おぼろ＝壽司につかふもの

(説) 春の夜の月は朧でございます。

35 すみれのたば

(説) すみれは實に可憐の花でございます。

36 なめくじ

(説) なめくじは一日ノソリ〳〵して居ります。

37 蝶＝玩具か、さもなければ襟どめ

(説) 菜の花には蝶と昔から相場がきまつて居ります。

38 一重もの

(説) ひとへです。

36 人參

(説) 之れは梅花嘗のもとで朝鮮傳來の人參です。

40 コチ(魚)

(説) 東風はコチと申します、今例をふげますと菅原道眞公の歌に

東風吹かば匂おこせよ梅の花
あるじなしとて春な忘れぞ。

41 春雨

中村春雨氏作の書、何にてもよし。

42 空氣枕　ねごゝろがよい

（説）昔から春眠曉を知らずとか申して＝いつでもですが＝春のあけがたは、實にねごゝろのよいものです、ましてこの空氣枕をすればなほねごゝろがようございます。

43 繭眉

（説）あなたは花の樣なお顔ですから、のまゆを差上げませう。

44 ハンカチイフ

（説）春風はハンケチの樣に鼻（花）をも吹きます。

45 面白い書物

（説）ノンキで至極面白うございます。

46 風船　ゴム或は紙のにてもよし

（説）空氣＝食ふ氣であります。

47 鶯餅

48 （説）うぐひすもちをたべます。

カラシ

（説）きいて涙が出ます。

49 梅か枝

（説）古今集に『鶯の笠にぬふてふ梅が枝を折りてかざゝむ老やかくる』とあります。

50 うぐひす＝玩具

（説）春のたよりはうぐひすがつげます

又しても意見の先を制せられ

親爺つまつてだんまりの幕。

あくがれし理想のホーム今いづく

味噌越手にし豆腐かふ身は。

夏の巻

1 輕燒か風船

（説）夏衣は輕うございます。輕燒や風船の代りに輕きものなればなにてもよし。

2 さつき（煙草）

（説）五月の事を皐月と申します。

3 長き紐

（説）夏の一日は隨分日も長う（紐ながう）ございます。

4 汁

（説）五月雨をつゆと申します。

5 インキ

（説）五月雨の空は何となくインキ（陰氣）でございます。

6 杜鵑（漬物）或は繪の不如歸にても可なり

7 團子

（説）五月五月は俗に端中（だんご）の節句と申します。

8 熱きもの

（説）夏の炎天は馬鹿に暑うございます。

9 空氣枕

（説）ひるねは實にねごゝろがようございます。

10 鈴

（説）夏の雷雨はこの鈴の樣に鳴ります（ならす）ふります（鈴を振て見る）光ります。

11 鈴と椎實

（説）どんなむしあつい日でも夕立がしますとすゞしくなります。

12 鈴三個

（説）納涼はすゞみです。

13 水

（説）洗濯になくてならないものは水で

ございます。

14 蛭と木の根　蛭根（晝寢）

（說）あつい盛りはひるねに限ります。

15 葭

（說）よしでなさい。

或はよしになさいで景品なしにても可なり。

16 木の根

（說）ねて居る内はあつさ知らずです。

17 杯　逆月

（說）月がめづらしくも逆さにうつりましたのだからさかづき（逆月）です

18 蚊燭

（說）之れさへ有れば、いくら蚊の軍勢が大擧してかゝつて來ても、大丈夫鐵の脇刀です。

19 炭　墨

（說）河の月は清くすみわたります。

20 褌　晒布

（說）きんをつゝむ夏財布は晒布に限ります。

21 鈴四

（說）すゞし

避暑の目的はすゞしいためです。

22 湯

（說）夏の夕ぐれはお湯に限ります。

23 足袋

（說）旅行即ちいひかへますればたびをなさるには是非足袋をお持にならないといけません。

24 地圖

（說）旅行のしをりは地圖です。

25 草枕（小說）

（說）旅行のことを草枕と申します。

36 鹽を出して浴びせかけるまねをなすべし

（說）海水浴いひかへればしほあびです

27 海綿、風船等極めて輕きものをえらぶべ

しゃかるい

（説）海にはいりますと、身體が大變かろくなります。之れはアルキメヂスの法則です。

28 前同様かるいもの

（説）水着は輕うございます。

29 菓子二個　おかし〳〵

（説）いくら夏とはいひながら褌一つのはだか姿は全くおかしうございます。

30 黒砂糖

（説）からだがくろくなります。

31 うき（釣道具）

（説）およぎがうまくなると身體がうきます。

32 湯と菓子

（説）お待ちかねの夕がしです。

33 氷

（説）一杯と申すと直にお酒を聯想なさいますが、夏の一杯は氷に限ります。

34 氷

（説）氷です。

35 鈴四個　すゞし

（説）箱根の夏はすゞしうございます。

36 西瓜

（説）水と火のくるしみは、水火の苦みです。

37 當籤者の手を枕にさせながら

（説）ひるねは手枕に限ります。

38 麥湯

（説）いくらのんでも酔はない夏ビールはむぎゆです。

39 惜しいつく〳〵、つく〳〵惜しい

説明者は當籤者に向ひ貴方には景品がありませんから、さぞつく〳〵おしいでせ

う。

40 村雨(菓子)
(説) 村雨はチョットおつなものです。

41 短かき絲
(説) 夏の夜は實に短かうございます。

42 コップに水四杯だすべし
(説) 山中の清水はしみづ(四水)と申します。

43 たきの繪
(説) 瀑布はたきのことです。

44 タオル
(説) 夏の大風はどこでもふきます。

45 松風(菓子)
(説) 之れは松風です、めし上つてごらん遊ばせ、ソレコソ涼しうございます。

46 咽喉をならすべし
(説) なつの暑い眞盛に氷を見ますと、

この通り(のどをならせながら)のどがなります。

47 面白い書物
(説) 夏休は老少の區別なく、私の樣にいゝ年をしたものまでたのしうございます。

48 霧吹器にて水をふきながら渡すべし
(説) 之れはきりふりでございます。

49 玩具の鋤
(説) 僕もすきです。

50 夏月(菓子)
(説) 夏の月は夏月です。

田樂もあきにけらじな高時が
犬たゝかはせ行司つとむる。
とぶ雁をジット眺めて義家が
さてはと一つ思ひ入れする。

秋の巻

1 説明者はあくびをしながら
（説）この通りあきが來ました。

2 齒磨粉
（説）はがうつくしくなります。

3 同様

4 かな（絲）と椎の實　かなしい
（説）秋の夕ぐれは何となくかなしうございます。之れはひとり私のみならず昔からうたよみやえらいかたゞもさういつて居られました。

5 田毎の月（最中）
（説）之れは信濃の名所田毎の月で御座います。

6 インキ

（説）秋の夜は何となくいんきでございます。

7 説明者は胸をドキ〳〵させながら
（説）大あらしの夜は、この通り胸がドキ〳〵いたします。

8 木の葉をちらすべし
（説）木の葉がちつて居ます。

9 草を七ついだすべし。七草
（説）秋の花園には七草（桔梗、萩、女郎花、藤襟、尾花、葛花、撫子）がさいて居ます。

10 紅葉
（説）氣をもみます。

11 秋色草（長唄稽古本）
説明者は秋の色草の初をうたひながら説明すべし。

12 手拭
（説）どこでもふきます。

13 菊花を酒に入れていだすべし

（説）九月九日（重陽の節句）は菊の酒を祝ひました。

14 菊

（説）菊と相場がついて居ります。

15 燈心

（説）秋になつて親しむべきは燈火です大もとなる燈心はなほさらです。

16 紅葉＝書にてもよし

（説）たつたがはの秋はもみぢでございます。

17 蛤

（説）之れは時雨蛤でございます。

18 徳利

（説）秋の晩は長うございますから、王をこまぬいてとつくりと思案をなさいまし。

19 曹達

20 （説）さうだをおつかひなさい。霧をふいて見せるべし。

（説）秋のかすみはきりでございます。

21 説明者は行つたりもどつたりすべし。

（説）お彼岸のやりとりは行つたりもどつたりします。

22 牡丹餅

（説）ぼたもちが一番結構です。

23 辻占

（説）いろ〳〵のことが出ます。

24 インキ

（説）何となく陰氣です。

25 草三つ

（説）くさ〳〵いたします。

26 菊

（説）きゝます

27 美麗なる菊　澤山

（説）團子坂や國技館にはいろ〳〵うつ

くしい菊が澤山あります。

28 鈴四個　すゞし

（說）秋の初風がふきだすとおしなべてすゞしくなります。

29 ぬれた襦袢

（說）はだ寒う感じます。

30 百色めかね

（說）人に見せたうございます。

31 短かい紐

（說）秋は一日とは申すものゝひも（日も）短かうございます。

32 花束

（說）いろ〳〵の花があります。

33 紅葉

（說）昔から二月の花よりも紅なりと申して紅葉は錦にたとへられて居りました。

34 桔梗

（說）秋のすみれは桔梗でございます。

35 うす墨

（說）花色がうすうございます。

36 村雨（菓子）

（說）秋の雨を村雨と申します。

37 男心（小說）

（說）むかしから男心を秋の空にたとへてありましたが、このごろでは女心の方が變りやすくなつた樣です。

38 當籤者をコツソリ椅子にかけさせながら

（說）いくら氣せはしい秋でも小春日和には少しはユツタリいたします。

39 紙屑籠

（說）昔から十月は神無月と申します、そのわけは出雲の大社にかみ〳〵があつまるからです。

40 米を多くだす

（説）米が實ます。

41 喜といふ文字を多くかいた紙

（説）よろこびさはぎます。

42 しぐれ蛤

（説）又雨模様ですか、だうりでしぐれて來ました。

43 しめりたる手拭

（説）しめります。

44 木の葉を澤山ちらすべし

（説）落葉狼籍です。

45 黄菊と白菊

（説）蕉門十哲の服部嵐雪は黄菊白菊その外の名はなくもがなとよんで黄菊と白菊とを理想といたされたさうです。

46 長き絲

（説）としよりにとつては秋の夜は非常に長うございます。

47 インキ

（説）何となくいんきです。

烟草やの娘十八愛らしく
心の樣な空箱をつむ
歌人がたからといひし子寶も
ダースをこしては有難からず。

冬の巻

1 火鉢

（說）火鉢でございます。

2 懐爐＝懐爐灰にてもよし

（說）ふところが暖かうございます。

3 花を六ついだすべし

（說）雪のことをむかしから六つの花と申します。

4 燒芋

（說）之れは輕便懐中暖爐で御座いす、暖かで、おなかゞすいた時分には滋養になりますから。

5 短い紐　日も短い

（說）この通りみぢかうございますか何にもすることが出來ません。

6 長いもの（何にてもよし）

（說）實にながうございます。

7 火吹竹

（說）ストーフ會議は隨分いろ〳〵の熱をふきたてます。

8 絽（衣裳）

（說）冬の御茶室はろ（爐）でなければけません。

9 毛絲

（說）ねたい眼をこすりながら編物をして居られます。

10 火鉢

（說）冬になるとみんな火鉢にまごゝます。

11 冷肉

（說）スッカリ氷りきります。

12 かんてん

（說）さながらこほりついた樣ではありませんか。

13 菓子二個

（説）實におかしおかしうございます。

14 松風（菓子）

（説）あつい夏の盛りにはうれしうございましたが、冬空になると松風などは實に惡くなります。

15 あげられぬ

（説）一つ風變りに氷のフライをこしらへて差し上げ樣としましたが、熱くなるに從つてジク〳〵とけだしとう〳〵あげられませんでした。

16 日記帳

（説）ひゞに（日々に）つけます。

17 水虫

（説）寒冬になりますと水仕事をする下女の指にはかはいさうに水虫が出來ます。

18 マッチ（火のもと）

（説）火のもとにおきをおつけなさいまし。

19 拍子木

（説）火の番は一世期前と同じ聲で拍子木を合方にして火の用心〳〵をくりかへしながら見廻ります。

20 菓子

（説）火事でございます。

21 紙をいだし一枚さきながら

（説）冬の北風はからだをさく樣にさむうございます。

22 トランプ

（説）冬は寒うございますから日がくれかゝると戸、洋燈が必要でございます。

23 蓮四本

（説）十二月のことを師走（四蓮）と申します。

24 笛、さはがしく吹きならすべし
（說）何となくさはがしうございます、
25 鬼の繪（面）
（說）鬼が來ますからこはいこと。

經驗のために一度はよからふと
議論の末に馬肉やへ入る。
刻限におくれてめしも本意なしと
とゃのつまりが鰻やとなる。

家庭の巻

1 しつけ絲
（說）しつけが肝要です。
2 たのしき家庭（書物）
（說）ハッピーホーム、之れを日本語に申しますれば、家庭團樂＝真ちたのしい家庭でございます。
3 金米糖
（說）親の心はこの金米糖の樣に甘いでも角があります。
4 マッチ二個
（說）いくら一つおなかからじた二兒の樣な兄弟でも、こゝろはマチ〳〵でございます。
5 香の物＝何にても時節柄のものをえらぶべし。

6 （説）孝行＝香の物＝と申します。

家庭遊戯博士＝大學館發行の書籍

（説）家庭でなさるゲームはこの一冊にたくさんでゝ居ります。

7 家庭雑誌＝麹町區三番町六十五番地家庭雑誌社發行

（説）家庭の虎の虎はこの雑誌にのこらずものされて居ります、諸大家、名媛の苦心談や、お料理の講義、お伽話や文苑、小説をはじめ、衛生やら、家事の實用的方面までのこるくまなく編纂された世に稀なる虎の巻です。

8 麩二袋を別々に揃へて出すべし、

（説）この通り同じ麩々でも別があります。

9 香物

（説）百行のもとは香の物（孝行）でございます。

10 供餅

（説）初物はかならず御先祖におそなへなさい。

11 蔑と箕

（説）よしみがあつてほしうございます。

12 拙くめちや〳〵にかきたる手紙

（説）こういふしうとめでは實にこの手紙の様によめにくい（嫁にくい）でせう。

13 硝子のコップ＝或は硝子の器具、（何にてもよし）

（説）かういふこはれやすい硝子類の様に持ち様一つでどうにでもなります。

14 拍子木

（説）木があつてよろしうございます。

15 玩具の琴二面
（説）琴瑟相あふのがよろしうございます。

16 鋏
（説）之れは女の操で今差し上げますから、破ならい様に大切になさいました。

17 薬＝何にでもよろし成るべく苦きものを用ふると面白し
（説）にがいけれどもからだのくすりになります。

18 團扇
（説）どんな疎遠な人でも親族はみなうちはでございます。

19 大根、つけな、かぶ……
（説）貴方の様な不孝なかたに上げたいものは、孝行のたね（香物のたね、でございます。

20 富士山の繪
（説）この様にたかうございます。

21 つま楊枝
（説）御亭主のお留守番ですから、屹度奥様（つま）の御用事で外出を遊ばしたのでございませう。

22 芋十個
（説）女の弟なればいもとです、サア貴方におみやげにこのいもとを差し上げませう。

23 定規
（説）どうしても筋をひきます。

24 菓子六個と葱
（説）むかし＝六菓子＝をしのびます。

25 小さい玩具の琴
（説）之れはよんで字のごとく、こゝと（小琴）でございます。

26 おやこどんぶり

（說）母と子はおやこです。（おやこどんぶりの代りに鷄と卵を用ふるもよし）

27 大きな袋

（說）母のことを俗におふくろと申します、之れはあなたがたは御存じありますまいが、うらだなの下等社會ではよく申します。

28 人參

（說）みちちになれば妊娠です。

29 菓子の鹽がま

（說）之れは安産のおまむり＝鹽がま神社から出たものです。

30 イン、キ＝陰氣

（說）名譽の戰死をとげた遺族者の家庭は何となくいんきです。

31 小石二個　こひし〳〵

（說）しばらく分れて居て、たゝ音信するばかりの古郷の妻は實にこひし〳〵うございます。

32 玩具の鴛鴦、或は菓子のおしどり

（說）おしどりを二個ならべて出し、（なかのいゝ夫婦はこのとほりまるでおしどりの樣です）。

33 將棋の駒

（說）歩々が先きだつ＝夫婦がさきだちます。

34 しつけ絲

（說）初等教育と申しますと、小學校の樣ですが、もつと初めは家庭教育即ちしつけでございます。

35 握飯一つ

（說）夫婦の緣は全く結び樣一つでございます。

36 玄米

（說）父はいつでも嚴でなければいけま

せん。

37 文字 慈

（説）母はいつも慈でなければいけません、むかしからいふ通り嚴父慈母で一家をおさめなければなりません。

38 鑓

（説）昔から申します通り子は夫婦のかすがひです。

39 紙を少く切りて出すべし

（説）まるで紙の粉＝神の子＝の樣でございます。

40 謠曲青海波の本を出して、四海波のくだりをのぶべし。

41 湯婆 うば

（説）小供のおもりはうばです。

42 犬張子

（説）小供のお馬は犬張子です。

43 馬鹿のむきみ

（説）親は小供のためには全く馬鹿になります。昔から親馬鹿チャンリン蕎麥屋の風鈴とか申すたとへの通り……

44 砂糖或は砂糖漬の入りたる袋＝たゞし袋に入りたるまゝだすべし。

（説）この通り甘うございます。

45 遊戯全書 いろ〳〵の遊戯があります。

（説）幼稚園の學科は殆ど遊戯で持ちきつて居ります＝丁度この本の樣に。……

46 飯粒と玩具の琴 まゝごと（飯琴）

（説）之をあげますから、おとなしくおばさんごつこや、まゝごとをしてお遊びなさい。

47 芋十個 いもと

（説）説明者は當籤者をよび『どんな…

…といふをまちてこんなのと芋十個をいだすべし。

48 おもちや

（説）小供をなぐさめてくれるものはおもちやです。

49 小石二個

（説）こひしこひしうございます。

50 飯粒と粉　まゝ子（繼子）

（説）まゝ子はかあいさうでございます。

わがせこが來べき宵なりあづま琴
かきならしては一人ほゝゑむ。

令嬢のお酌はいたみ入りながら
心にもつとつげかしと祈る。

ハイカラの巻

1 卵

（説）ハイカラ紳士はからでもちます。

2 ハイカラのコツプ

（説）ハイカラの演説はいやに氣取ちらしつかへると水計りのみます。

3 鏡

（説）ハイカラ先生は毎日〳〵早取寫眞をやります、これこの様に……（鏡にて當籤者の顔をうつすべし。）

4 マッチ十箇

（説）實にマチドウ＝待遠です。

5 香水　好水

（説）ハイカラ連は水をのみます、いゝかへれば好水です。

6 蓮葉

（説）九尺二間のうらだな式部ときては遺葉でお話になりません。

7 化粧箱

（説）これがハイカラの虎の巻です。大なるカラ

8

（説）虚榮心＝英語で申せばバニテー＝は即ちハイカラです。

9

羽と球＝兩者とも玩具のものを用ふる方がよし。

（説）うはきの式部はいつもはねまはつて居ます。

10 香水

（説）すでに歴史で御承知でも御座いませうが、數千年以前エジプトでノワの時、大洪水がありました。別にその紀念の香水といふわけではありませんが、このこうすゐを差し上げます。

11 カラ 空

（説）何にもなければ即ちカラです。

12 タオル

（説）手折りませう。

13 悪しき石鹸、質が悪るい

（説）この石鹸式部はなか〳〵質がわるうございますからそのつもりで…

14 カヲール

（説）ソレモそのはつ梅が香はブーンとおつにかをりますから。

15 ツル香水

（説）ハイカラのとりはツルでございます。

16 毛養液 夜間につける

（説）この瓦斯燈は夜間（やかん頭）につけます。

17 ゼム 春六

（説）六人の春中があへば、春六（ゼム）

です、もー四人一所になれば、すんでの事にせむし＝脊六四になりますアハ……

18 ほらがい

（説）いつでも大きなことを吹きたてます（成るべく大なる法螺貝がよし）

19 灰と卵のから

（説）現今の輕薄才子をば、俗にハイカラと申します。

20 ハイカラのコップに金魚二尾を入れてだすべし。

（説）中がよく見えます。

21 玩具の猫と犬

（説）これは猫でニャーこつちは犬でワン二つつゞけてニャワンです。

22 笛と風車

（説）虚榮をつくし、上部は體裁をつゞろつては居るものゝ内幕へ入るゝ

高利貸に攻めたてられるやら、實にピー〳〵風車の慘狀でございます、説明者は景品の笛をピー〳〵と吹いて説明すべし。

23 玩具の自働車或は烟草のサイクル

（説）ハイカラの乘物は自働車です、一歩下るとサイクル（自轉車）ですが、また時としては口車にも隨分よくのります。

24 胡麻と菓子

（説）ごまかしてばかり居ます。

25 キザ柿

（説）この内にはお居でにはなりませんが、ハイカラ式部のなつてない英語ときては、實にキザで齒が浮きさうです。

26 スキ櫛　かみをすく

（説）製紙會社の女工は、いつでも紙

（髪）をすきます。

27 星＝紙にて作りおくべし＝とスミレ（インキ、鉛筆、造花、生花、白粉等何にてもスミレの名を稱するものなればよし）

（説）ハイカラ文士の着眼する點は星とすみれとにあります。

28 座布圍或は釜敷

（説）ハイカラ女房はいつでも、ハスバンド（亭主）をしりにします。

29 木とる　氣とる

（説）初め景品なる木片をテーブル上におき、説明者はサモ氣取りたる態度にて件の木を取りて渡すべし。

30 コスメチック　なかをよく分ける

（説）ハイカラの仲裁人はあつちへべタ〳〵こつちへべタ〳〵しながらも、どうかかうかよく仲をわけます。

31 花合せ

（説）ハイカラ先生がたはみんな天狗揃ですからはなとはなとがあひます。

32 紫色＝紫色のものなれば何にてもよし、或はすみれ香水

（説）ハイカラの色はすみれいろ即ち紫色で、なほ香はすみれに限られる様になりました。

33 湯

（説）第一は湯でございます。

34 粟九粒　粟くふ

（説）いつもあはくひます、なほ景品の粟を口に入れて、くふまねをなすも佳なり。

35 畫學紙にて非常に大きく作りたるハイカラを出すべし。

（説）みえをはるハイカラのレース、こ

とに長距離レースときては、このカラの様にたれもかけてがありません。

36 悪るい白粉　なまりがある

（説）いやにきどりちらすハイカラの言語はなまりが有ります。

37 高いカラー

（説）この様にくびがさはりません。

38 上等なるつげの櫛　いゝつけ

（説）密告はいゝつけです。

39 たけながゝ成るべく大なるたけながを用ふべし、たけながの代りに長き竹を用ふるも可なり。

（説）何ぼ何でもかういふ様にたけ（せい）が長くつては、流石のハイカラもお困りでせう。

40 毛のない筆ゝさきのない筆

（説）ハイカラ氣質はさきのない毛の様にねつからやくにたちません。

41 ボタン　牡丹

（説）花の王は牡丹でございます。

42 きうす（茶器）窮す

（説）さすがのハイカラも之れには窮しませう。

43 紅　赤くそめます

（説）きりやうのわるいかたゝは、とかく紅やおしろいでかくすためにそめます。

44 萬朝報

（説）よろつに重報です。

45 小さい雑記帳

（説）少しばかりひかへます。

46 香水　こすい

（説）此ごろのハイカラ連には隨分人がわるくつて、こすいものがありますから御用心なさい。

47 上等のステッキ
（説）メッタにつくことがありません。

48 鯉のぼり
（説）口さき計りではらわたがありません。

49 やりたくない
景品なし

50 ラッキャウ
（説）むいても〳〵皮ばかりです、（むきながら説明すべし）。

歌舞伎座へ車いそがす奥様の
おめしの羽織ぬき衣紋なる。
一合の酒に陶然女房の
いとに合せてはなうた歌ふ

文房具の巻

1 内氣者
（説）萬事ひかへます。

2 伊達政宗
（説）伊達政宗は陸奥守（六つの紙）です。

3 英國の大哲學者
（説）スペンサーです。

4 消防夫
（説）消すのが役目です。

5 武部源藏
（説）武部源藏は菅秀才の身代にたてくびでくらうすると思つて首でくらうします。

6 水のじく
（説）筆は水莖です。

7 づぶとい奴

8 (說) ふでー奴。
月毛の駒
白き毛の筆を用ふべし。

9 齋藤實盛最後の化粧
(說) 白い首を黑く染めてかゝりました。

10 明治の高德藤村操
(說) 木を削つてかきました。

11 東京の言語
(說) 訛がありません。

12 一ツ橋の學校
(說) コンマーシャル(高等商業學校をいふ)

13 秘事をすつぱぬかれ
(說) 赤くなつたり、青くなつたり。

14 學者のたゝかひ
(說) 學者は筆で戰ひます。

15 神經家
(說) 何となく陰氣です。

16 墓所
(說) いんきです。

17 航海者の敵
(說) 航海者の敵は封筒(風、濤)です。

18 招待狀は封書でしたか
(說) エーはがきでした。

19 靜岡縣士族もとは
(說) 靜岡縣士族はもとは駿河藩士です。

20 演說のをはりには
(說) 拍手します。

21 老人のあたま
(說) 白うございます。

22 正道
(說) 正道は純潔です。

23 相場師の經驗
(說) すればするほど黑うとになる。

す。

24 黒い紅

（説）見つともないから黒い紅を唇につけるのはおよしなさい。

25 關取同士の取組ハッケヨイヤ

（説）いゝかげんに水を入れます。

26 日本一國進上

（説）石見の國（いひかへますれば硯）をさしあげます。

27 應仁の亂

（説）京師慘狀（野紙三帖）を呈します。

28 おのれもたゞのねずみぢやあんめい

（説）仰の通り仁木（日記）でございます。

29 支那の古いペーパー

（説）これは支那のむかし唐の紙です。

30 文士學者の武器

（説）文士や學者は筆の鐵砲＝筆づゝ

で戰爭します。

31 徳川の大老二人

（説）井伊本多（いゝ本だ）です。

23 古代のたみ

（説）古代の民は質朴（筆墨）でした。

33 古代の印度

（説）印度はそのむかしペンチグ（天竺）といつて居ました。

34 こゞえじに

（説）寒さのためにこゞえて死ねば、之れがほんとに凍死です。

35 内親王

手製の色紙に式子内親王の御歌

玉の緒よたえなばたえねながらへばしのぶる事のよわりもぞする

をかきていだすべし。

36 藝者のお座敷

（説）ペン〳〵が這入ります。

37 ころんで手を
（説）つくえです。

38 小松重盛
（説）平の重盛は内府（内大臣）でございます。

39 人力車夫
（説）かけたりひいたりいたします。ことに此頃川口氏の發賣する大珠盤は結構でございます。

40 ゴッド
（説）西洋のかみです

41 耶蘇教の主義
（説）かみ一つです。

42 珍魚落雁閉月羞花
（説）多くの野洋紙（形容詞）です。

43 ハイカラ學者
（説）ハイカラを衒らふエセ學者は金文字入りの本を澤山たてかけてよろ

こんで居ります、何とあさましい至では御座いませんか。

44 たまご
（説）たまごは鳥の子です。

45 道案内者
（説）案内者はしをりです。

46 二分の一
（説）二分の一は半きれです。

47 處女の初戀
（説）狀をこめてつゝみます。

48 あゝ汚い君の顔は
（説）あか計りではありませんか。

49 按摩鍼治
（説）もみます。

50 酔漢馬を
（説）まきちらします。

お茶代のしるしは直にあらはれて
二階の客が松の間となる。
ほうづきの代にとられし一兩や
げにうぬぼれは高いものなり。

學事の卷

1 小なる額

（說）初等教育は即ち小學（小額）でございます。

2 學校（雜誌）

（說）教の庭と申せば、大學、中學、小學の區別なく等しくみな學校です。

3 經四枚

（說）先生は經四（教師）です。

4 富士山の繪

（說）先生の御恩は富士山よりも高うございます。

4 中位の額

（說）普通教育は中學です。

6 獨樂

（說）學問をなすには心棒が肝要でございます。

7 大なる額

（說）最高の學問をする所は大學です。

8 時計

（說）いつも休みません。

9 反古

（說）反古を與へる小學校の先生はいつでも生徒に保護をあたへます。

10 遊戯博士（大學館發行）

（說）いろ〳〵の遊戯があります。

11 德利のはかま

（說）女學生のしるしははかまです。

12 くすり（何にてもよし）

（說）先生の訓諭は其身にとつてくすりになります。

13 烟草

（說）末は吸ばハイカラ（灰から）にた

ります。

14 生揚

（說）之れはたいだでなまけの洒落で御座います。

15 熊の油

（說）日課點は日々（ひび）につけます。

16 錐

（說）入學試驗ほどむづかしいものはありませんから學生は非常に氣（木）をもみます。

14 新聲（雜誌）

（說）試驗場は實に神聖なところです。

18 マッチ十箇

（說）ソレ〳〵は胸がドキ〳〵浪をうつて待遠でございます。

19 胡麻と菓子＝或はゴマの入りたる菓子

（說）不勉强の學生はいつでも試驗をゴマカします。

20 生薑の砂糖漬

（說）あまい樣で辛いところもあります。

21 餡の入りたる菓子とランプの心

（說）試驗がすんで御安心でせう、サア慰勞のしるしにこのケークを差し上げますから召し上れ。

22 靴墨

（說）試驗の翌日は全く苦痛すみです。

23 赤と青の心入りたる鉛筆

（說）成蹟が發表されますと生徒の顏色は赤くなつたり青くなつたりします。

24 大なる炙

（說）炙大＝及第＝に違ひありませんことによると優等になるかも知れません。

25 豪傑の寫眞

（説）かういふ人の様に、えらくなります。

26 墮落（小説）

（説）なまけになまけぬいた報はかういふ様に墮落します。

27 印行四個　四判　師範

（説）教員を養成する學校は師範（學校）です。

28 辭書

（説）下讀の虎の卷は、辭書に限ります、怠るにこのごろの學生は、やゝともすれば、辭書をくるのを面倒がつて、直譯とか、講義錄にたよるのは實に愚の至りです。

29 辨慶の繪

（説）學生は辨慶のやうに、よく勉強しなければいけません。

30 玉＝硝子のたまか、ベースボールの玉を

いだすべし。

（説）艱難汝を玉にすと、古の聖人もの べられました。

31 大なる炙

（説）炙大（及第）します。

32 揮（猿股なればなほ可なり）

（説）づるい學生はたくみに欠勤（尻拳）をつゝみます。

33 楊枝　用事

（説）遲刻した生徒はいつでも用事だ〳〵といつていひわけをします。

34 はねとまはり（玩具）

（説）いつもはねまはつて居ます。

35 蛤

（説）なまけものは、この蛤の様にいつでも果報はねてまてなどゝいつて、空中樓閣をゆめみて居ます。

36 こゝらかつた絲

(説) とけにくうございます。

37 木の葉二枚 葉々(母)

(説) 勉強は幸福の母です。

38 コンマーシャルペンシル(鉛筆)

(説) 商業學校はコンマーシャルです。

39 燒芋

(説) いゝ兵(屁)を養成します。

40 くすり(何にてもよし)

(説) 身にくすりです。

41 新聞紙

(説) 無學者は全く新聞紙によつて文字を覺えいゝ勉強が出來ます。

42 ビン

(説) 頭をうたなければやくにたちません。

43 小なる丸をかきたる紙或は小なるまりにても可なり。

(説) 屹度しまひには、こまります。

44 糠と釘

(説) 出來そくなつた馬鹿者にはいくら親が心をこめて意見をしても、コノ通り糠に釘ですと、説明しながら、景品の糠に釘をさしてきかざることを見せ然るのちに渡すべし

45 色紙と鮭

(説) 男子のいましめは、色と酒です。

46 釜敷

(説) おかましきにあります。

47 燒芋

(説) 冬の寒い夜は、スキートポテトーを懐中にして勉強するに限ります。

48 筆洗

(説) 學生は筆でたゝかひます。

49 説明者は當籤者の前にうしろむきにたち、眷中を出し

（說）勤勉家は、何事にも脊を出す（精を出し）ます。

50 幸福の母（書物）

（說）勞苦は幸福の母でございます。

51 小なる額を四枚出すべし（簡單に紙にて作りたるものにて可なり）

（說）帝國大學を卒業すれば學士（額四）です。

52 ビー〳〵（笛）

景品を沙す時に、說明者はふきたつるべし。

53 齒磨粉

（說）校中（口中）をよく掃除します。

齒磨の代りに楊枝を用ふるも可なり。

54 鐵の火箸かねでなければならぬ

（說）いかに才があつても現今の世で、十分に學問を成就しやうとするには、金でなければなりません。

55 鰹節

（說）かい（書いて）たべます。

56 團扇と破れたる水入

（說）同級會＝クラス、ミーティング＝はうちわ同士で水入らずです。

57 藝妓の寫眞

（說）苦學生の泣言はいつも月謝（藝者）です。

58 南天（植物）

（說）何點ですか。

59 玩具の矢と額　矢額

（說）夜の勉強所は夜學です。

60 紙製の額九枚

（說）苦しんで學問するのを苦學（九額）と申します。

61 白紙

（說）已に皆樣の御承知の如く、帝國大學を卒業しますと學士ソレから大

學院を卒業しますれば、博士（白紙になります。

62 針

（說）裁縫の先生は、俗にお針の先生と申します。

63 やはらかき餅を景品としていだし、當籤者の前にてくづすべし。

（說）放蕩の結果この通り身をもちくづし（餅くづ）します。

64 雜記帳

（說）內氣の學生は何事も萬事ひかへます。

65 鐵類（鐵火鉢かなづち、其他何にてもよし）かたう御座います。

（說）藹然舍と申すは吉田松蔭先生の松下村塾に學だ中島靖九郎先生の設立された塾で小石川は金富町にございます、先生は大抱負を以て經

營され專ら神道、儒道、佛道、古今談話、書法、茶道、周易等を指導されて居ります。

新世帶まだ日も淺さわが妻が
かまから飯をもつてだすなり。

盧生今うたゝ榮華の夢さめて
行水つかひ夕がしをよぶ。

飲食物の巻

1 畫工
（説）えかきはかつをぶしの様にかいてたゞます。

2 おまつり
（説）だしが出ます。

3 素盞嗚尊簸川上のおみやげ
（説）やまたのおろちの八つ頭です。

4 月夜の五百騎
（説）月のかげで五百の兵士は倍すなはち千兵（煎餅）になります。

5 つゞれの絽
（説）さはるとすぐきれます。

6 かくし事をすつぱぬかれ
（説）きけばきくほどあかくなります。

7 日本の裸體畫

8 （説）おかしうございます。
やぶれ靴は二度と
（説）はくまい

9 華族の若様
（説）妻が（菜が）添ふ時分には御前（ごぜん）といはれます。

10 元老會議
（説）しらげて御前へでる。

11 坊やこのおとゝは
（説）ほしいか（惜しいか）

12 神官の下位
（説）禰宜でございます。

13 いかのぼり、或は試驗の成蹟
（説）上がつたり下つたりします。

14 空寺
（説）空寺は貸す寺です。

15 酒奴のつらの皮
（説）むいてもむいても皮ばかりです。

16 百行のもとは何ですか
（説）孝行（香物）です。
17 明日までおかれぬから
（説）今夜くふ
18 木々のしげみ
（説）木が澤山しげつたところは、もり（森）といひます。
19 徒競爭
（説）かけ（走るいみ）
20 百味のもと
（説）鹽は百味のもとです。
21 子どもが出來ることを何といひますか
（説）姙娠（人參）といひます。
22 東夷西戎北狄？
（説）支那人は昔自分の國を尊んで中華と申し、四方の國人を東夷、西戎、北狄、南蠻といひました。
23 下女の笑顔

24 （説）下女の笑顔は丁度岡目です。
かなしい話
（説）きいて涙がこぼれます。
25 差し支へ
（説）かう故障が起るとは、何て間が悪るいのでせう。
26 朝寢坊
（説）のりだす
27 銀行の火事
（説）おさつが燒けます。
28 よつぱらひ
（説）何となく酒くさうございます。
29 づぶとい奴
（説）おしが強うございます。
30 あの人は本當によく働きます
（説）まめです
31 近火の時は
（説）三つばんです（ばんは三箇用意す

べし）

32 いきな川魚

（説）いきな川魚は鮒（麩七）です（麩は七つ用意しおくべし）

33 十五夜

（説）十五夜を望（餅）と申します。

34 このごろの商賣は

（説）しまだ　或は　十六七才の乳母

（説）しまだうば

35 手力雄尊

（説）岩をおこしました。

36 英語の落第

（説）英語の落第はドロップです。

37 眞のまんなか

（説）最中です。

38 魚類のいのち

（説）單に魚類のいのち計でなく、萬物

の靈長たる人間にとつてもいのちと申すべき大切のものです。

39 人を馬鹿にする

（説）茶にします。

40 イエス、クリストの血しほ

（説）之れはイエスクリストの血しほださうです。

41 神器の一つ

（説）まがたまです。

42 たゝかれてもいたくないものは

（説）いたくない計りでなく、かへつて結構です。

43 山下の涼風

（説）松風はまたかくべつなものです。

44 都會の鳥

（説）之れは都會にすむおつなとりです

45 なき妹の手向にせんと枝をれば心有りげの露ぞこぼるゝ

46 (說) 花の露も亦一掬の涙があります。

阿部仲麿の理想

(說) 安部仲麿は支那にわたり、研學した結果大變支那人から惜しまれどうしても日本にかへることが出來ないので

天の原ふりさけ見れば春日なる
三笠の山にいでし月かも

の歌をよみました。

47 好機會

(說) このいゝをりを貴方はいたゞくとは何て間がいゝんでせう。

48 お前はこゝがわるいから

(說) おなほしない

49 多摩川の秋

(說) 多摩川の秋は調布です。

50 梅のやきもの

(說) 梅をやくと香ばしい結構な紅梅燒

となります。

午後三時退屈らしゝ連中が
又も持ちだすあみだくじかな。

お師匠のおんぶでかたる尼が崎
武智光秀しやがれ聲なる。

演藝の巻

1 芝(植物)をとりだしその上にすはるべし
(說) 芝居です。

2 指環(ゆびわ)
(說) 當今三都を押しくるめて歌舞伎の花はしかん(芝翫)です。

3 櫻漬
(說) 木内宗吾はさくらでからい目をします。

4 手習草紙 壯士
(說) 川上音二郎が淺草鳥越の中村座でオッペケペーで旗上げをした時分は壯士といつて居りました。

5 マッチ 十個
(說) 實に待遠です。

6 芹と麩
(說) 臺詞(芹麩)と申します。

7 皮と紙
(說) 正劇の親玉と申すよりも元祖は川上で御座います。

8 大根
(說) 馬の足とはまづい下等な俳優のことでさらに之れを大根とも申します。

9 鼻緒と小なる箱 をはこ
(說) 十八番なることばは市川團十郎に始つたことで、おはこ物をいふのであります。

10 扇子を二本重ねていだすべし
(說) 尾上菊五郎の紋はかさね扇でございます。

11 升(米をはかるもの)
(說) 平土間のことを俗にますと申します。

す。

12 うづら豆　或はうづらの繪か玩具

（説）高土間の事を俗にうづらと申します。

13 細きもの、こまかくあみたるものにても小なる物（豆、玉食物等）なればよし。

（説）菊五郎のげいは實に細かうございました。

14 菜と鯛（玩具にても繪にてもよし）

（説）菜鯛（名題）となります。

15 大根より

（説）名人になるには、大根から修業をしていかなければなりません。

16 澁柿　しぶい

（説）みよしやの藝は全くしぶうございます。

17 粗末なる玩具の琴　あらごと

（説）堀越十八番の暫は　あらごとの中でも錚々たるものです。

18 將棊の駒をうらがへしにして出すべし、なりこま

（説）芝翫が出れば直に大向から成駒やところゑがかゝります。

19 今土燒の福助

（説）芝翫は幼名を福助と申して居りました。

20 丸き箸　丸箸

（説）市川左團次は丸橋（忠彌）から名をあげました。

21 四角に切りたる木　四角（芝鶴）

（説）大文字とは芝鶴（中村）の事でございます。

22 大なる安菓子

（説）思つたよりうまく有りません。

23 百色眼鏡

（説）芝居通はのぞくにかぎります。

24 木を袋に入れて出すべし＝座上にて入れるべし

（説）芝居の幕開にはこの通り柏子木が這入ります。

25 石鹸　あわだつ

（説）いくらおちついたりみえを切て見ても素人の芝居は何となくあわだちます。

26 獨樂

（説）才三の情婦はおこまです。

27 金の入らざる墓口或は財布

（説）かねにうらみはかず〳〵御座ると毫詞の様に説明すべし。

28 干瓢　掛平

（説）おかるのいゝ人は干瓢さんでした。

29 袋入りの輕燒

（説）うちにおかるやき

30 あさり

（説）門を破つた勇婦板額の良人は淺利與一でございます。

31 ともえ

（説）ともえ御前は初め木曾義仲のつまでしたが、義仲が粟津の敗後鎌倉に下り和田義盛にかたづき朝日奈三郎義秀を生みました。

32 草履

（説）鏡山の奥庭で岩藤はお初からおまもりだといつて草履を頭にのせられます。

33 茶椀に魚を入れて出すべし

（説）まむしの次郎吉はとゝやの茶椀でございます。

34 土産品（何にてもよし）

（説）いへづとで御座います。

35 つけ木　つげの木

（説）立ち廻りにはいつも木が這入ります。

36 大根に餅　大皷持

（説）幇間は大皷持です。

37 寄附帳　勸進帳　或はせきしやう（植物）と胡麻菓子

（説）辨慶は安宅關へさしかゝつて富樫左衛門にたづねられた時、勸進帳（寄附帳）をよみあげて通りすぎました。或は關所をごまかしました。

38 菓子二個　おかし〻〻

（説）上手の落語はおかしうございます。

39 筆

（説）これは竹本鞘太夫、竹本軸太夫です。

40 ランプの眞

（説）一番終にでる演者を眞打と申します。

41 大なる薩摩芋

（説）和楓今の（鐵翁）のおはこは大ざつまで御座います。

42 都々逸の本

（説）扇歌の音曲はどゞいつであります。

43 扇

（説）講釋師扇でうそを叩き出しとか申しまして、之れが講釋師の虎の卷です。

44 ラッパ　バック

（説）近頃はラッパ節とかバック節とかいふ妙な音曲が流行するではありませんか。

45 花　花で持つ

（説）故人になつた三遊亭圓遊は鼻（花）が大變愛嬌でした。

46 太き掉

（説）義太夫のことをむかしから太掉と申します。

47 鉛筆

（説）備後三郎即ち兒島高徳は木を削つてかきます。

48 玩具の杵と矢

（説）長唄の家元は杵屋（杵、矢）で御座います。

49 砂糖づけ

（説）いつきいても甘つたるうございます。

50 日光の繪。美くお山でもつ

（説）目下賣出しの花形役者岩井粂三郎は＝日光の様に＝（舞臺顔がうつくしくつて）＝おやゝまで持ちます。

疊算くりかしても待つ人の
こゝ自烈たさスコヤケでれる。

浮世風呂端唄都々逸黄な聲や
しはがれ聲の藝づくしなり。

空籤の巻

1 あけてから

（説）あけてからです、併し老人にならないのがめつけものです。

2 いづく

（説）昔は隨分榮華の夢にふけつたのですが、時勢のうつりかはるとともに、その榮華は今はどこに行たでせうかトント分りませんから、一つ君がお探になつておもとめ下さい。

3 くじがない

（説）まづい辯護士にはサッパリくむ（公事）がありません。

4 屁一つ

（説）コレは〳〵全くお氣毒様でございい

ます。

5 わたさぬ

（説）こんなに暴風雨がはげしくつては舟を出してわたすことは出來ません。

6 から（空）

（説）洋裝にはからが第一でございます。

7 水の泡

（説）水の泡ときえました、やれ〳〵なさけないことではありませんか。

8 時計を見せるばかりにて直に引きこますべし

（説）とけやらぬ（時計やらぬ）

9 鐵拳

（説）ゲンコッを出してうつまねをなすべし。

10 佛像

（説）ぶつぞ

11 たゝ

（説）恐らく何がやすいと云つたつてたゝほどやすいものは有りません。

12 やるまいぞ〳〵

能狂言のやうにふしをつけていふべし。

13 空氣をだす

（説）病氣が全快すれば喰ふ氣をだします。と説明しながら空氣を手に一つかみだすまねをなすべし。

14 お宿へよろしく

ばつたり

15 説明者は當籤者につきあたり。わざとたほれながら説明すべし。

16 はつてやりたい

説明者は當籤者をはるまねをなすべし。

17 畫餅

（説）かうものごとが畫餅になつては仕

方がありません。

18 カラ

(説) 卵から君と白味を取つて仕舞へばあとはカラ許になります。

19 一頭だに得られません

(説) ソンナに慾ばるかたには何にも上げられません。

20 とられる

(説) とられるのですが、何にももらはずとられないのがまだしもめつけものですから早くお歸り遊しませ。

21 かんがへて見る計り

(説) 御遠慮なく考て御覽なさい、考る分には物は入りませんし、決してとめだてはいたしませんから。

22 出しにくい

(説) 百萬圓はおろかのこと一千圓からになるとなか〳〵われ〳〵ふせいには出し惡うございます。

23 くれなゐ

(説) 之れはくれなゐ

24 ゼロ〳〵を出します

(説) いくら何でも〇〇では持つておいでにはなられますまい。

25 なし

(説) いかほどお探しになつても不老不死やリッチのおくすりはありますまい、その昔支那で秦の始皇帝が亂れに亂れた春秋戰國の群雄をほろぼし國内を一統しましたが、慾には限のないもので、不老不死の藥をのんで、何千年も生き樣と金にあかせて大探しにさがされましたが、とう〳〵得ることが出來ずになくなつてしまつたとの事でご

さいます。

白縮の蹴出し風になびかせて
四十女の足早に行く。
月さゆる冬の夜すがら物干に
源氏の旗のひるがへる見ゆ。

雑籤の巻

1 割箸を出し、二つにわりながら
（説）朝鮮はこの通り日本の物（二本のもの）となりましたと説明すべし。

2 葭を澤山出すべし、よしさはでもつ
（説）こゝにことさら御紹介するまでもなく、四宿の名所板橋でチョットおつにたべさせるところは吉澤でございます、何を申すも今の主人は廓や千束町でさんざつぱら粋と苦勞をしつくした人ですから、家のつくりといひ小道具までいきに出來上つて居ります。

3 饅頭一つ
（説）本會の決議は滿場一致で山います

4 やうくわん洋館

（説）このごろ立派のお屋敷は大概は洋館でございます。

5 甘くなき菓子

（説）ちつともあまく感じません。

6 はやりもの（小説）

（説）自働車は今のはやりものです。

7 本の表紙（本にてもよし）

（説）ボールが肝要です。

8 日光羊羹

（説）かなやホテルは日光の洋館です。

9 干菓子

（説）西に對する方は東です。

10 バッタ（虫）

（説）バンには是非バッタがなければなりません。

11 菓六個　むかし

（説）十年以前は一むかしです。

12 寫眞

（説）種痘は寫眞の様にうつしてとります。

13 輕石

（説）これこの通り笑醫だらけです、何と愛嬌がいゝんでせう。

14 陶器　騰貴

（説）かう不景氣つゞきでは品物はドンドンたうきします。

15 大なる薩摩芋或は大薩摩の稽古本

（説）今年の出水は實におそろしくもまたすさまじくもありました。説明者は『おそろしくもまたすさまじし』とうたへばなほ面白し。

16 杓子

（説）ごぜんをすくひます。

17 お玉杓子二本　かはづの子

（説）曾我十郎祐成、曾我五郎時致はともに河津（蛙）の子でございます。

18 インキ

（説）何となくインキですからねすぐに分ります。

19 戰爭の繪

（説）實に勇ましうございます。

20 ねりあぶり　べたつくにあり

（説）蝙蝠といふ奴は實に内股膏藥で、べたついてばかり居ます。

21 草箒木

（説）下郎はこんな大きな筆でかきあつめます。

22 おとぎばなし

（説）兒童の慰籍者はおとぎです。

23 小なるマッチ

（説）小町です。

24 植木鉢と薪　はちまき

（説）頭痛にはちまきに限ります。

25 小なる玩具の琴　こゝと

（説）叱言はいくらくつても腹にたまりません。

26 五德

（説）仁義禮智信の五德に重をおきました。

27 安き石鹼

（説）之れは安井息軒先生でございます。

28 錦の小きれ　小錦

（説）二十山は前名を小錦と申しました。

29 紗

（説）ふくさ

30 飛白

（説）かすりをとります。

31 三尺帶

（説）長い褌は六尺ですから、之れを半分にきれば三尺帶が出來ます。

32 扇

（説）やたらに人をあふぎたてます。

33 手ふき（半巾手拭、タオル等）

（説）手富貴です。

34 晒布木綿

（説）晒布木綿はがまくち即ち金嚢もう少しいひかへれば睾嚢＝褌＝をつくります。

35 玩具の矢と木の根　矢根

（説）矢根（屋根）と申します。

36 袷

（説）ドンナものでも書物にはうらとおもてがあります。

37 つまがけ（下駄の）

（説）つまのはしです。

38 杓子

（説）五尺に足りない小男なら四尺です、なんとまアちんちくりんでせう。

98 古びたる半紙

（説）むかしの藩士です。

40 箕

（説）魚の肉をみと申します。

41 ネクタイ

（説）おまむりはいつでもくびにかけます。

42 絽

（説）百姓家ではろが火鉢です。

43 さらし（晒布）

（説）江戸時代では僧侶があるまじくも不品行をすると、日本橋にさらしになります。

44 絹絲

（説）これがかひこの死骸のなれのはてです。

45 針

（説）佛蘭西の都はぱり（巴里）でございます。

46 奈良漬　かすがだいじ

（説）藤原氏の氏神は春日大神（糟が大切で）御座います。

47 メリヤス

（説）メリヤス（節）が一時流行いたしました。

48 猿股下帶の類

（説）金閣寺＝罩かくしです。

49 銀と角（將棋の駒）

（説）足利義政は東山に銀閣をたてました。

50 經濟要解金貯小遣帳

（説）おかねもちにならうと思つたらお小遣から氣をつけておかゝりにならねばなりません、之れは東京は下谷の二長町五十一松浦屋商店から登錄をして賣り出した小遣帳で簿記の原理を應用し收支の額を豫算を明らかにして作つたものでお金のたまることは受け合ひと保證を打つた帳面です。

51 淺草紙

（説）ふくのかみです。

52 張この虎

（説）頭を下げるばかりです。はりこの虎の代りに頭を下げるも差支へなし。

53 玩具の俵十箇

（説）俵藤太でございます。

54 針

（説）ガリバは針を太刀にして小人國を旅行しました。

55 昆布

（説）こんぶー

56 字つき

（説）痔もちのかたがしりもちをつけば痔（字）をつきます。

57 ランプの心　四つ

（説）詩を作る人は詩人（四心）です。

58 三ッ目錐

（説）四つ目のてまへは三ッ目です。

59 南京豆

（説）南京まめです。

60 腰巻

（説）士藏の要所は腰巻です。

61 湯巻

（説）湯の中へ筆を入れてかきまはすと湯文字が出來ます。

62 晒布二反　仁田四郎

（説）富士の裾野の牧狩の時獅子を退治た英雄は二反の白＝仁田四郎＝でございます。

63 獨樂

（説）しんばうがだいじです。

64 白紙に一の字をかきたるものを景品として出し

（説）しんばうすれば住寺（十字）になります。

と説明しながら筆にて一の字を十の字になし漉すべし。

65 墨

（説）いつでもすつて計り居ます。

66 急須（茶器）

（説）家がきうすから給仕にでるのです。

67 説明者は當籤者を呼びいだし机によりかゝりしめながら

（説）玄關番はつねに机によりかゝりながら勉強して居ります。

68 勞働に關する書物

69 （説）勞働ばかりです、
絲のつきたる紙鳶を當籤者のみゝにつけながら
（説）耳にたこです。

70 ビン
（説）頭をうたないと役に立ちません。

71 萬朝報
（説）きのきいたりかうものは萬にちやうはうです。

72 鑪
（説）放蕩息子はやすりの樣なものでかねをすります。

73 天狗の面
（説）高くなります。

74 錐
（説）多くもみます。

75 摘み菜
（説）新婚披露とさへいへば名義は大變

結構にはちがひありませんが妻見なにすぎません。

76 子杓
（説）功により子爵を賜ります。

77 景品なし
（説）身代限りになると何にもありません。

78 染物屋のシンシ
（説）上流社會の人は即ち紳士です。

79 大なる浮輕石
（説）思つたよりかるくつて結構でございます。

80 説明者は机にひぢをつき眠りしかたちにて語るべし。
（説）ねてかたります。

81 大根、薩摩芋、大混雜
（説）引越最中ときては大混雜で足もみこめやいたしません。

82 花
（説）御祝儀（花）をおだしになるとなか〳〵よくもてます。

83 懐爐
（説）あつたかうございます。

84 石鹸
（説）節倹が大切です。

85 錆たる小刀
（説）身から出た錆です。

86 大なるランプの心
（説）大臣でございます。

87 草履
（説）首相は即ち總理大臣です。

88 花の蕾
（説）直にさかん（佐官）になります。

89 人形の軍人
（説）國の花は軍人でございます。

90 小なる玉を出し指先にてつきあたふべし
（説）玉つきでございます。

91 長き褌
（説）しめてかゝれば大丈夫です。

92 元結
（説）丸橋忠彌等の亂はもとゆひ（もとゆい）から起りました。

93 犬張子
（説）赤兒の馬は犬張子でございます。

94 起上り小法師
（説）倒れては起き上ります。

95 はたき
（説）下女同志が御座敷で合戰を初めさすとかういふさいはいで指揮をします。

96 干晩
（説）干物になりませう。

97 香、角、王（將棋の駒）
（説）花川戸助六は俠客の王様（香角の

王様）です。

98 さくら

（説）一木千本とは之れを申したのでせう。

99 福引集

（説）いろ〳〵の文句が出ます。

100 鶯餅

（説）鶯のたべる餅はうぐひすもちです

101 ツボン下

（説）ツボンと下に這入ります。

102 あまき菓子

（説）何となく甘まつたるございます。

103 六尺（反物類）

（説）昔の仲間は六尺と申しました。

104 酸漿

（説）おかめは鼻が低いからころびましても鼻はうたず却て頬をつきます

105 花合

（説）天狗がはち合せをすればはなとはなとが合ひます。

107 浴衣地

（説）賣卜者はうらないです。

107 ボタン

（説）之れは牡丹です。

108 呉服

（説）之れはいつゝのさいはひ五福（呉服です。

109 八丈

（説）むかしの流罪地は八丈島です。

110 裳（もすそ、か腰巻）

（説）海邊の草は藻（裳）です。

111 バケツ

（説）馬のしりがひもー少し下等にいとバケツです。

112 獨樂

（説）心ぼうが肝要です。

113 木の片と帳面
（説）律氣の人はきちやうめん（木帳面）でございます。

114 絞り（反物）
（説）しぼります。

115 半襟
（説）からを日本語に譯すと襟です、半分の襟は半襟ではありませんか。

116 羽子板
（説）をんながつき廻ります。

117 蠟石
（説）老人のせきはらうせきです。

118 大なる鈴
（説）婚禮は人間の大禮で御座います。

119 半紙半帳
（説）あの猛烈な自働車にひかれれば半死半生は當り前です。

120 樽柿

121
（説）あかゝき源藏でございます。
柿ばかり澤山出すべし、かきばかり
（説）罪人の衣裳は上衣でも股引でも、襦袢でも、越中褌でも、女のしめる三尺帶でも湯卷でものこらずかきいろださうです。

122 マッチ
（説）ベースボール試合をマッチと申します。

123 柳の枝
（説）柳の枝は水にたれ（見ずにたれ）ます。

124 毛抜
（説）毛がよくぬけます。

125 ビン二本
（説）琵琶はビン〳〵となります。

126 薩摩芋
（説）筑前琵琶だの、玄海琵琶だの、平

家琵琶などみなどれもこれも結構には違ひありませんがさつまの方が一番いゝ様に思はれます。

127 熊の薬
（説）日々（ひゞ）につけます。

128 島田まけ
（説）大水からこつち不景氣でメツキリしまです。

129 竹の鞘
（説）これは竹の内の洒落です。

130 つれ〳〵草
（説）ソレほどたいくつならば之れでもおよみ遊しませ。

131 杯洗
（説）よんで字の如く敗戰です。

132 バック
（説）公園はバックですバックがつまればバックになります。

133 湯呑
（説）あいてが米人ですから原語でいひますと、you kuow-me

134 白干魚
（説）之れは論語よみの論語知らずですたら（魚）

135 たらは大日魚とかき健談家のモデルで御座います。
（説）

126 玩具の杵と皮　杵皮
（説）梅の名所は杵皮（木下川）です。

137 マッチ
（説）すりの時計はスツテつけます。

138 切りたての六尺褌
（説）まつ白できよらかです、だからこれをしめて水をお浴なさい。

139 鋤（玩具）
（説）かひこの命は桑でございます。

141 菜と鮭　慈情

（説）なさけでございます。むかしからなさけは人のためならずとか申しますから、今私は貴方になさけをかけるのです。

142 松待

（説）まちますから是非いらつしやい。

143 名刺

（説）眼科醫師は眼醫士（名刺）で御座います。

144 玩具の鋤

（説）すきです

145 繭（繭のもなかにてもよし）

（説）古から美人の顔は目鼻だちとかいつて花の顔月の眉と形容して居ます。

146 太皷と絲

（説）第一に太皷と絲（三味）が這入りま

す。

147 貝九つ　九貝

（説）むかしからくるわのことを九貝（苦海）といつて居ります。

148 砂糖

（説）北廓とはさとのことです。

149 串柿二本

（説）先のない筆は全くかきにくし（柿二串）

150 鐵物　かね

（説）マネーとは錢のことで、錢は俗にかねと申します。

151 自在（ランプ）

（説）之れは實に自由自在です。

152 だるま

（説）よくころびます。

153 瓦

（説）之れが水のひたかはらです。

154 茶碗と

（説）茶碗とおすはりなさいと説明しながら景品の茶碗をテーブルの上にチャンとおくべし。

155 柿

（説）かきます。

156 小なる琴（玩具）

（説）けんつくは叱言（小琴）でたべてあんまりいゝものではありません。

157 切手四枚　切てしまへ

（説）賣國奴などは切ておしまひなさい。と説明しながら四枚つゞきたる景品の切手を席上で四枚に切り港すべし。

158 火箸

（説）しばし

束の間はホンのしばしです。

159 膳

（説）人を助けるのはぜん（善）です。

160 紙袋

（説）ねこはかういふ冠をかぶつて猫ちやくををどります。

161 ランプの笠

（説）あたまがランプです。

162 さんばの繪

（説）取り上げばゞはさんばと申します

163 草と木くさぎ

（説）うんこは皆さん大概おかぎになつて御承知でも御座いませうがくさいにほひがいたします。

164 筆墨

（説）金魚は筆墨（麩ですみ）ます。

165 たわし

（説）之れで顔のヂヤンコを掃除すればたちどころにきれいになります。

166 木の葉二枚　ハツパ

（説）六十四を平方に開くとはつぱ六十

四で、今念のため式をたて、運算しますと。

$$\begin{array}{r} 64 \\ -\ 64 \\ \hline 6 \end{array} = 8$$

167 紙十枚

（説）どうかみ

説明者は景品の紙をふりまはしとうかみゐみため〳〵と絶叫すればおもしろし。

168 鏡

（説）どんな時でも向ひ合ひです、チエストーやけますこと。

169 徳利

（説）之れをあげますからとつくりと思案なさいまし。

170 草鞋

（説）之れをはいて一足からそろ〳〵と始まります。

171 カンテン

（説）思ひだせは三十七八年日露戰爭の當時浦鹽艦隊はあはれや氷りついてうごけませんでした。

172 カステラ、燒豆腐

（説）夫婦兩方からやいてはたまりません、まだこげないのがめつけものです。

173 一山一錢の安菓子

（説）バルチック艦隊は日本海で一戰（一錢）で大まけになりました。

174 雜巾 象罩

（説）これはざうきんでございます。

175 急須（茶器）

（説）實に窮しますと頭をかきながら説明すべし。

176 はうき（しゆろの）

（説）之れは小人國のしゆろの木でござ

177 ゼロ〳〵

います。

（説）ゼロ〳〵で何にも景品がありません。

178 化物の繪

（説）お化が出ました。

179 菓子二個

（説）おかし〳〵

180 手まねで演説のまねをしながら

（説）唖のことですから手まねばかりです。

181 大根

（説）昨夜私は夢にコン〳〵の腹大鼓をうつ音をきゝました、丁度大根をうつ樣でした。

182 いゝ菜漬

（説）未來のワイフ即ちエンゲージはいゝなづけです。

183 煙草

（説）酒くせの惡るい人はのんでからはきます。

184 エモン柿

（説）衣服の襟のところを衣紋と申します。

185 茄子

（説）ナゼそんなことをなすのです。

186 薔薇

（説）ばらの花はうつくしうございますけれど、いたいとげが有りますから御用心なさいまし。

187 梅

（説）どうかうめて下さい。

188 灰吹

（説）たまればたまるほど汚くなります

189 蛭とバン

（説）娼妓はひるとばんの二食です。

190 栗九粒

（説）あはくひます。景品の栗を口に入れ食ふまねをなすも可なり。

191 傘と草履

（説）晴れては雨方あはれません。

192 箸二本

（説）田舎の便所は極簡單で二本ばしをわたした許りです。

193 菓子とお伽話

（説）かつぼれは實におかしくつて面白うございます。

194 福助（今土燒）

（説）新駒屋すなはち福助の樣で愛嬌たつぷりだこと。

195 豆腐 道風

（説）之れは小野とうふでございます。

196 時事新報

（説）ちゝい進歩です。

197 犬張子

（説）ゴット God の逆立は Dog 犬でございます。

198 草履

（説）注射よりも草履を頭にのせる方がよくきくさうです。

199 正宗（酒）

（説）さはると切れます。

200 水出し

（説）鯨はいきをするたびに水をだします。

201 歌集

（説）石川縣は加州です。

202 越中 揮

（説）ヘコたれます。

263 町醫者（村井弦齋著）

（説）開業醫は町醫者です。

404 ホトヽギス（漬物）
（説）今はの一聲は血になくおもひがします。

205 みたれがみ（小説）
（説）朝寢してみだれがみのすがたは餘りよくはありません。

206 拙くかきたる手紙
（説）かういふ筆蹟をかなくぎ流と申します。

207 きたなきもの
（説）東西南では北なうございます。

208 木の芽目
（説）これはめで目の代理をいたします

209 逓げるにしかず（景品なし）
説明者は當籌者をよび出し、逓げだすべし。

210 貝三つ　三かい
（説）世界の秘密地として知られたるペットの曠原は未開です。

211 朝鮮史
（説）代々李氏（利子）でもちました。

212 植木鉢　蜂
（説）なきがほにはちですと説明しながら景品の鉢を當籌者の顔におつけるべし。

213 鰐二つ　たら〳〵
（説）たら〳〵ながれます。

214 下駄
（説）から〳〵（唐から）わたる。

215 長き餅
（説）之れはお嫁の持つてくる長持でございます。

216 くし
（説）あたまをかきます。

217 かい十二個
（説）凌雲閣は十二階でございます。

218 景品に花をだし折りてわたすべし

（説）美事におられました。

219 みやこすみ　火がついても長く保ちます

（説）之れは今般下谷區二長町十三番地吉田義徳氏の發賣するもので、紀州から出る練炭で御座います、先づマッチですみの力へ火をつけて埋めておきますれば火力全體につたはり、ますけれど八時間以上はたしかに保つもので、お火鉢、煙草盆やあんかには持てこいといふステキな炭でございます。

220 奈良漬

（説）これはおならづけでございます。

221 提灯

（説）提灯と申しますと時代後れのもの〻樣に馬鹿にしますが、暗夜の案内者は之れにかぎります。

222 卵の君

（説）全くのところ君ばかりです。

223 砂糖

（説）蟻がたかる

水天宮のお札は全く有がたかります現在昨年戌年戌月戌の日は前夜から押しだし多くのけが人があつたさうです。

224 たまご

（説）なかに君がましまします。

225 かけた杯

（説）色好まざる男は玉の杯底なきがごとしと吉田兼好は徒然草にものされました。

226 もつと籤を引かすべし。

（説）人氣の辯護士は多くくじがあります。

227 杓子飯盛

（説）めしもりと申します。

228 橙

（説）祖先からなら代々です。

229 ライオン齒磨

（説）動物園の人氣物はライオンです。

230 靴

（説）かたつぼづゝだすべし

しのびわらひは苦しいものでクッ〳〵笑ひます。と説明しながらクッ〳〵笑つて見せるべし。

231 木の根

（説）ね（寢）にかぎります。

232 豆薪

（説）節分には御祝儀として豆まきをいたします、之れこの通りに……と説明しながら薪をバットの如くにかまへ（福は内鬼は外）といひながら少し許り豆をまけば面白かるべし。

233 玩具の釜と椀　かまわん

234 土筆

（説）君ソンナ間違はかまわんよ。

九州はむかしつくし（筑紫）と申ました。

235 水引

（説）百姓喧嘩は水引から起る樣です。

236 卵

（説）どうかかへらずに居て下さいますがなきますから。

237 燒餅

（説）やきもちもいゝ加減になさい、こげすぎると犬もたべませんから。

235 くわゐ

（説）おゝくわはい（こわい）こと！

239 おもちやのはと

（説）いつもなきます。

240 干し菜　ほしいな

（説）誰しも惜しうございます。

241 口なし(植物)
(説) 死人には口がありません。

242 扇
(説) 扇を見ると涙のたねです。

243 おかめの面
(説) 谷間の櫻は花が〝鼻〟が低うございます。

244 風車
(説) 幼童は(風車かせのまに〳〵廻るなりやまず廻れ……)と風車をうたひます。

245 面(何にてもよし)
(説) これが君のかほですとだしぬけに景品の面をだして當籤者の顔にかぶせるべし。

246 ゴム風船瓦斯の入りたるもの)
(説) ジットしては居られません。

247 釣道樂(弦齋著)

248 (説) 太公望はつりが道樂でした。
ラッキャウ
(説) むいても〳〵も皮ばかりです、サゾあつかつたでせう。

249 長きふんどし
(説) しつからふんどしをしめておいでなさい。

250 日本文法
(説) これは敷島=いひかへますれば和歌の法律でございます。

261 輕石
(説) 之れは美人のジャンコです。

252 ねづみ(おもちや)
(説) よんで字の如くどちらも害になります。

253 蕪菁
十
(説) 之れはむかし武士が戰場に望む時に帽子としてかぶつて出たかぶと

でございます。

254 木氣

（説）男は氣でもてとはむかしから江戸つ兒のいつた金言です。

255 菜に二把

（説）仁德天皇は攝津のなには（難波）にみやこされました。

256 黍吉備

（説）かたかなの作者は吉備眞備でございます。

257 人參

（説）之れははたけ中で第一の美人でございます。

258 そら豆

（説）人參にまけずにお齒ぐろをつけてをります。

059 竹

（説）身のながさはたけと申します。

260 灌腸器　間牒

（説）之れはかんちやう何てひどい奴ですね。

261 漬菜

（説）お錢をつかつたら忘れない内に早くつけな

262 拍子木

（説）かちかちなりひゞきますと説明しながら打ち合すべし。

363 浮木（釣道具）

（説）實にうき世です。

264 玩具の鷄

（説）日光のおたまやは實にけつかうで御座います。

265 炭團

（説）之れは奈良の大佛樣の鼻糞ですから、大きくつて黑うございます。

266 箸箱　羽柴子

（説）豊臣秀頼は羽柴筑前守秀吉の子でございます。

267 ばかのむきみ

（説）之れはばかでございます。

265 貝

（説）あつまることを會と申します。

269 芋

（説）いもりの尾即ちりがなければいゝでございます。

270 福袋

（説）何が出るか分りません、早くおかへりになつてあけて御覽なさい。

271 提灯

（説）ラブシックにかゝた人はついもブラ〳〵して居ます。

273 わらんじ

（説）狂言にもよりますがわらんじ（左團次）は名人でした。

273 淺草紙

（説）淺草神でございます。

274 文字文珠

（説）昔から三人よれば文珠の智慧とか申しまして智慧が出ます。

275 葱

（説）白根之れは下野の名山白根山に生じたねぎですから、根が白うございます。

276 胴じめ

（説）胴じめは極意ださうです。

277 白扇

（説）白扇をさかさにて出すべし。之れが富士山でございます。『富士の畫をかきおけばなほよし。

278 靴

（説）くつはかはのお化でございます、字でもお分りになりませう。

279 マッチ

マッチを澤山山につみていだすべし。

（説）むかしの端唄の文言通り月に風情をまつち山です。

280 バット

（説）バットがかたきです。

281 狀袋八枚

（説）牛の小便はだら〳〵と流れて十八町（狀八丁）とむかしからいはれてをります。

282 毛と血（血は赤きインキにてにじつけおくべし）

（説）伊勢やの主人は至てけちでございます。

283 葛（屑）

（説）之れはくづでございます。

284 かつをぶし

（説）おまつりには花としてだし（花車）ができます。

285 つけひげ

（説）だしははやしてひつぱります。

286 饅頭 萬十

（説）101 二乘は100
101 三乘は1000
101 四乘は10000
101 五乘は100000
十萬の反對は萬十＝饅頭

089 紙にて作りたるかた

（説）一ばんに上方『紙かた』と申します。

288 もぐさ

（説）火『日』がたつに從つてあつくなります。

289 大福餅

（説）大福をおもちのかたは仕合せでございます。

280 財布

（説）おまむりはいつでもくびにおかけ

なさい。

291 たまご
（説）なかに君がまします。

292 ねづみ
（説）たゞでさへ惡らしいねづみはペストのなかうどまでいたします。

293 灰『あく』
（説）不正行爲はいはずと知れたあくでございます

244 粟九粒
（説）あはくひます。

295 教師用書方用紙
（説）之れは牛込は南山伏町長谷川敬行氏が案出した先生用のかきかた用紙で府下各學校に採用されて居る結構なものでございます。

296 ステッテと美人の繪
（説）いづれもステキな美人でございます。

297 鮎
（説）かうやのとらのまきはあいでございます。

298 抛くかきたる繪
（説）ごらんの通りまづうございます。

299 みやうが
（説）實にみやうがでございます。

300 さくら
（説）日本の名花はさくらでございます。

301 南天　何點
（説）一體君今度の平均は何點ですか。

302 百色めがね
（説）なかをのぞき見ます。

303 まんりやう（植物）
（説）むかしの一萬圓は萬兩に當ります

304 源氏合せ
（説）平家のかたきは源氏です。

305 賽四個
（説）君は實に賽四『才士』です。

306 珊瑚樹
（説）海中のたからはさんごでございます。

307 小なる丸をかきたるかみを景品としていだすべし。
（説）實にこまります。

308 封筒
（説）風濤にはよわります。

309 南蠻蕎麥
（説）チリン／＼と電鈴をならしてよびだしますと、交換手はいつでも石で判を押した様に何番／＼といひます。

310 しば

311
（説）三緣山增上寺は徳川二代將軍のおたまやでしばにございます。
印を出し絲にて結ぶまねをなすべし。
（説）この様に印を結びます、とて手つきをなすべし。

312 柑
（説）小説にかぎらずつゞきものは未完でございます。

313 朝顏
（説）あさがほを御らん下さい。

314 みかん
（説）皆様がおすきの柑は身に毒わつて皮に能がありひいたる風を發散させるが妙藥ださうです。

315 報知新聞
（説）このしらせ（報知）は大變にはやうございます。

316 杉

317 みかん
（説）夏もやう〳〵にすぎました、これからが活動する世界です。
（説）うはきのむすめはこまつたもので色づくとはだかになります。

318 つまつたきせる
（説）おそらく世間で無理はとほりません。

319 末廣（扇）
（説）いつまでも榮えます。

320 糠に釘
説明者は景品のぬかに釘をさしきかざる實例を示しながら説明すべし。

321 書學紙
（説）鶯の大學を卒業しますれば、直に鶯學士（書學士）となります。

322 二重底のかたい靴下　かたい西洋のたび
（説）これは東京小石川は白山前三商會

（説）車夫はいつでもハイ〳〵とかけごゑをして引きます。

334 玩具の馬と矢及び箸　馬矢箸
（説）吾妻橋と兩國橋の中間はうまやばしでございます。

335 あづまあられ（菓子）
（説）關東地方は一ばんにあづまと申します。

336 眼鏡と箸
（説）めがねばしでございます。

337 大口魚
（説）よんで字のごとく大口魚でございます。

338 がまぐち
（説）がま口の樣です。

339 マッチ十個
（説）實にマッチ十（待遠）でございます

340 鳥もち

（説）たいこもちは人をそらさず實によくとりもちます。

341 灸

（説）丸をきどつてよめばきうになります、何てあついこと。

342 ノンセンス

之れには景品がありません。

343 中央新聞

（説）日本の中央でございます。

344 コスメチック或はくし

（説）よくなかをわけます。

345 下駄

（説）これら病ははきますから直に分ります。

346 表絲の青き書物

（説）おもてがあをうございました。

347 インキ

（説）いくら酒や何かで景氣をつけます

三宅捨吉かたより販賣する二重底の靴下でかたいことゝ色合のかはらないことは受けあひです、ですからふだんのおつかひ用は申すに及ばず、東洋から西洋をまたにかけてたびをなさるかた〳〵でも一足あれば澤山といふ重寶でございます。

323 かたくり粉

（説）一時流行した赤馬車（一名圓太郎馬車）はがたくりしてこまります。

324 澤庵

（説）全く大石がなければ出來ませんでした。

325 案山子

（説）一本足で早稲田になりひゝいて居ります。

326 白き旗

327 （説）弱國の兵士はいつでも白いはたを持てまさかの時の用にたてます。

かな『絲』

328 （説）いろはかなです。

上草履

329 （説）なか〳〵土がつきません。

大小『暦』

330 （説）之れが明治の大小です。

かみくづ籠

331 （説）八百萬のかみ〻〵が集ります。

もりそば

（説）木が澤山しげつたところはもりと申します。

332 京獃

（説）恐怖

日露の戰でどぎもをぬかれた露人はいつもきようふの念を抱いて居られることでせう。

333 灰

けれどお通夜はいんきでございます。

348 大なるさつまいも　大薩摩

（説）おそろしくもめざましし……と大薩摩の口調にてうたふべし。

349 ロゼストウエンスキーの寫眞

（説）之れは露西亞土產のウキスキーでございます。

350 越中褌

（説）豫想ほどはづれやすいものはありません。

351 香物と椎の實

（説）何となくかう〳〵しいです。

352 にわとり

（説）ヘン〳〵

353 ちりがみ

（説）大黑樣はふくのかみです。

354 無花果（中村春雨作）

355 （説）いちゞくは隱花植物でございます

公事根源

（説）雲上の御儀式のことがよく分ります。

356 唐もろこし

（説）唐もろこしは唐きびとも申します

357 愉快なる書物

（説）實に愉快でたまりません。

358 貝三個

（説）ぢきに貝三（解散）します。

359 バイコの墨

（説）敗北（灰墨）します。

360 源平盛衰記

（説）之れを御覽になれば八島の戰がよくお分りになります。

361 肉類の味噌づけ

（説）それこそしつゝこうございます。

362 當籤者を呼びいだしテーブルをゆすぶる

363 ぺし

（説）地震はこの通りゆれます。

なし（梨）

（説）支那がひつくりかへればそれこそなしになります。

364 菓子

（説）之れはかしです。

365 さんきらい（藥）

（説）どなたもおすきなかたはありますまいが、地震と火事と雷とは三きらひです、オットまだ何かゞありましたつけね。

366 笊 猿

（説）野猿坊はさると申します。

267 蜂、葡萄酒にても玩具にても繪にてもよし、と蠟燭

（説）爲朝は爲義の八番目の子でございます、だから鎮西八郎爲朝と申す

368 ではありませんか。
大なる石
（説）大石良雄でございます。

369 炬燵やぐら
（説）四足獣の内であつたかいものは炬燵やぐらでございます。之れはたべられないけれど、よく人があたります。

370 刺身
（説）おさしみが出來ます、ことに鯛やひらめときては結構でございませんか。

371 常盤御前の繪
（説）ときはでございます。きいた計りでもよだれがおたれになるでせう

372 小石二個
（説）こひし〳〵うございますす。

373 すかしの入りたるかみ。

374 （説）なかをすかしてみます。
瓦とマッチ
（説）之れはお染久松の淨瑠璃で今もむかしもかはら町名代むすめの……

275 當籤者をよびいだし
（説）おくらを上げやうと思ひましたがいいくらくつて見つかりませんから、どうかお探しになつてお持ち下さい。

376 菓子の牛皮
（説）牛の皮はぎうひでございます。

377 飴 水飴
（説）飴（雨）は甘い水でございます。

378 栗
（説）八里あるきましたがまだ一里有るとはガッカリングで都合九里〳〵實に前途遼遠でございます。

379 じん

（説）しんがなければあかりはつきません。

380 水月のバン

（説）水に月では水月でせう。

381 水見ず

（説）私はいやなものはみずにすごします。

382 らくがん

袋に入れ上に堅田とかきおくべし。

（説）これは近江八景の一つかたゝの落雁でございます。

383 うぐひす餅

（説）うぐひすは南無妙法連華經といふので經鳥も申します。

384 ふじの雪（菓子）

（説）之れはふじの雪でございます。

385 蜘蛛

（説）くも（雲）が出ます。

386 急須

（説）いつでも窮します。

387 紙の帶

（説）これはまゝごとのお花嫁さんの帶でございます。

388 千代紙

（説）之れは千代をことふく紙でございます。

389 寒暖計

（説）米相場は寒暖計の様にやうき工合で上たり下たりします。

390 寒暖計

（説）かへりには屹度晉頭（温度）を見ます。

391 孫の手

（説）かゆいところへ手がとゞきます。

392 歩、金（將棊の駒）或は王と桂馬（同上）

（説）布巾（歩金）でも桶（王桂）でもどち

らでも差し上げませう、いつそのこと二つとも上げませう。

393 玩具の矢と木の根

（説）家屋のいたゞきは矢根、屋根、と申します。

394 琴（事）玩具

（説）事件はことです。

395 太鼓と箸

（説）これは本所の亀井戸の太鼓橋でございます。

396 ちうか（中夏）

（説）ちうかはおいしうございます。

397 灰肺

（説）むかし漢法醫が勞咳といつた病氣は今日の肺病（灰）でございます。

398 白扇

（説）白拍子

上方藝者は白拍子と申します。

説明者は白扇をひらきしづやし

しづのをだまきくりかへし昔を今になすよしもがなとうたひながら舞へば一際面白し。

399 世界歴史

（説）この方は世界の歴史がくわしくわかります。

400 砂糖

（説）ハワイのおみやげは砂糖より外になんにも有りません。

401 楊枝

（説）楊子でございます。

402 鋏

（説）つかひ様によつては隨分役にたちます。

403 木の根

（説）アンモは木根（杵）でつきます。

404 かゞみ

（説）いゝかゞみです。

405 如露

（説）公卿や上達部は雲上上人（上州）でございます。

406 ドンブリ或は ジャポン（水菓子）

（説）みなげのおとはドンブリかジャポンにきまつて居ります。

407 大根と菜 大艱難

（説）この交渉問題は大こんなです。

408 硝子のうつはもの

（説）おたなときては大切にしなければいけません。

409 羊羹

（説）洋館でございます。

410 玩具の時計と麩

（説）電話本局の一番は東京府（時計麩）でございます。

411 箱庭

（説）貴方のお宅ではお狭くつてお庭がないさうですから、小庭園をさし上げませう。

412 箸一膳と紙 一膳の紙

（説）我國で古今の名奉行は越前守でございました。

413 硯

（説）之れは文のうみでございますから玉藻をおあさり遊ばしませ。

414 世界讀本

（説）これは實に世界の識者でございますナゼなればこの方に朝夕ついて勉強すれば世界のことがよくわかりますから。

415 あんか

（説）之れは實に安價です。

416 吸ひ取り紙

（説）しみやすうございます、説明のため水インク等を少しテーブルの上

にたらししみこますべし。

417 ランプのしん四つ

（說）ローマのホーマーは詩人（四しん）でした。

418 消し炭

（說）かんしやくもちは直によくおこります。

419 椿

（說）唾液はつばきでございます。

420 佛の繪

（說）知らぬが佛と申す通り實におめでたうございます。

421 木

（說）木をきかすのです。

422 葉蘭

（說）浪風はばらんのもとです。

423 山の繪

（說）豫想の計畫をやまと申します。

424 すみれ（インクにても畫にて花にてもよし）

（說）すみれはかよわいなつかしい色香でございます。

（山をかけると說明し席上にて白紙に山をかくも面白し）

425 柿

（說）安藝の名產はかきです。

426 つけ木 つけ氣

（說）この興奮劑は寒さのためにこゞえて感覺を失つた人のつけ氣には一番よくきくものですからこゞえたらおためしなさい。

487 胡麻菓子と杉の葉

（說）やう〳〵にごまかしてすぎました。

423 紅葉（楓）

（說）小供の掌は實にもみぢの樣に小さ

くつて美しうございます。

429 木氣

（説）きで御座います。

430 幹

（説）神に上げる酒をみきと申すではありませんか。

431 芽

（説）めがなければ何にも分りません。

432 松

（説）折角まゐつたのでございますからおかへりまでまつ（松）としましやう。

433 大根

（説）之れは大功でたしかに金鵄勳章にあたりませう。

434 一重もの

（説）さつぱりとしたひとへがよろしうございます。

435 旗

（説）はたでございます。

436 絽（呉服）爐

（説）前にもこれと殆ど同様のくじで説明いたしました通り、四疊半のお座敷と申せばお茶室で御座いますお茶室の火鉢は夏は風爐で冬は爐でございます。

437 さゞえ（少しにてよし）些細

（説）ホンの景品としてさゝいですが差し上げませう。

438 貝粥

（説）病人は普通のめしは消化が悪るいさうですからかいになさい。

439 妻

（説）之れは僕のさいです。

440 苞入り納豆

（説）おみやげ＝いへづと＝に之れを差

し上げませう。

441 麩を九つ　麩九(福)

(説) ふくは結構なものですから、貴方に差し上げませう。

442 供餅

(説) おそうないですから、ユックリ遊でいらつしやい。

443 香物　新粉

(説) おこうこを新香(しんこ)と申します。

444 豆

(説) ちきにぐたくになります。

445 かけ蕎麥

(説) かけと申します。

446 雀(鈴目)

(説) 鈴が物を見ますとは、屹度鈴に目が出來てすゞめになつたのでございませう。

447 めちやくちやにかきたる文字

(説) 私が貴方の心をよむことが出來ない樣に貴方も亦秋の心底をおよみなさることは出來ますまい實に人の心は一朝一夕ではよめにくいものです。

448 棒を五本いだすべし　五棒(牛旁)

(説) 野菜は澤山ありますが、中でも一番うまいものは牛旁(五棒)でございます。

449 箸

(説) いつでも御前(御膳)につきそひます。

450 海苔

(説) のりませう。

451 茶

(説) さう茶にしはていけません。

452 エピスピール

453 キリンビール

（説）之れはエビス様の化身でございます。

（説）昔から聖人が出る前にはキリンが出るといひつたへられてをります今キリンが出ましたから、屹度聖人が出るに違ひありません。

454 ラムネ

（説）むねのやけるのをふせぎます。

455 ブランデー

（説）手をおくじきになつたのですかどうりでブラン（手）になりました。

456 酒

（説）お米の水は酒と相塙がきまつてをります。

457 文庫

（説）貴方は澤山御本をお持になるといふことですから、入れる文庫を差し上げませう。

458 吸取紙

（説）たくみに吸ひ取ります。

459 一尺の物指

（説）之れは尺（癪）でございます。

460 梨

（説）無一物とはなしのことです。

461 毛生液

（説）やかん（夜間）につけます。

462 却て損です

（このくじには景品なし）

462 豆腐のから（卯の花）

（説）死骸のことをからと申します。

464 ランプ

（説）夜間（やかん）に必要です。

465 花

（説）はなが眞中でございます。

466 里芋

467 面十個
（説）細かな仕事は實にめんどうでございます。

468 石と鐵槌
（説）かたいばかりで御座います。

469 干したる菜
（説）實に御同様ほしいな。

470 淺草紙
（説）觀世音は淺草にございます。

471 玩具の烏とかなもの
（説）日なし貸のことを烏金と申しますなぜなれば朝夜があけて烏がカアー〳〵となき出しさへすればとらたてにかゝりますから。

472 菓子をだして喰ふまねをすべし。
（説）もーおやつですからこの菓子をめし上れ。

（説）小供俳優はなか〳〵親芋よりもうまうございます。

473 氷菓子
（説）之れはいはずと知れた高利貸でございます。

474 帽子をいだし、二度この帽子にて招ぎながら
（説）帽子〳〵（もーし〳〵）と説明すべし。

475 六尺の褌
（説）之れはをとこに限ります。

476 白粉
（説）お城居です。

477 おかめ（そば或は面）
（説）おかめときてはいやはや。

478 石鹸
（説）せつけんの博士でございます。

479 小なる籠　四個
（説）之れは北米のみやこシカゴ（四籠）

480 で御座います。

松、竹、梅（待焚け、うめ）

（説）之れは私どもがお湯に這入る時もしこんで居たらまつ、ぬるければたけ、と命じ、あつければうめさせるのでございます。

481 油

（説）いくらまじつてもうきます。

482 金太郎

（説）之れははだかでいろ〳〵のものを退治した英雄で御座います。

483 薙刀草履　薙刀酸漿

（説）之れはそのむかし巴御前が使用したといふなぎなたでございます。

484 庭下駄

（説）之れはお庭下駄（鬼は下駄）でございます。

488 蝶の襟止

486 （説）菜の花には蝶と昔から相場がきまつて居ります。

ヒーロー（烟草）

（説）西郷隆盛は日本のヒーローでございます。

487 大なる靴のかた

（説）誠にたいくつ（大靴）でございます

488 呉絽（反物）

（説）曾我十郎の弟は五郎と申しました

489 薪（たきつけ、消炭）いづれにてもよし、

（説）たきつけるとちきにおこります。

490 明石艦の繪

（説）つまらないことを考こんだためとう〳〵ねられず一夜をあかしてしまいました、何とつまらないこと

491 箸立

（説）之れは日本三景の一なる丹後の國の橋立（箸立）で御座います。

492 ときは木の枝（葉のつきたるものがよし）

（説）ときはにございます。

493 赤土のかたまり

（説）之れは大砲のたまで、うてば破裂します。

494 こぶしをかためて出すべし。

（説）之れは祖先からつたはつた鐵拳でございます。

495 ブリッキの鐘とパン　かんばん

（説）デッキの所をかんばん（甲板）と申します。

496 石炭　咳嗽

（説）かぜをひきます直にせきたんが出ます。

497 燈爐

（説）登樓と申します。

498 すりばち

499 （説）時々胡麻をすります。

菊五郎の寫眞

（説）世話で持ち切ります。

500 萬歳の繪　或は扇（末廣）

（説）萬歳／／／／或は末廣うさかへます。

やう〳〵の思で入れし餅搗の
胸につかへてやるせなげなり。

馬の齢一つひろへどノンキさの
相もかはらぬおめでたきかな。

今日も亦歌留多の會が生傷の
たゆる隙なき松の内かな。

屠蘇の香に千代の齢をことぶきて
馬齢を拾らふた太平の春。

形式の御慶はいつそぬきにして
いでへなぶらんほろえひの春。

新式抱腹絶倒福引大全終

明治四十四年十二月十二日印刷
明治四十四年十二月十五日發行

抱腹絕倒福引大全

定價金貳拾錢

著作權所有

著作兼發行者　東京市神田區鍋町廿一番地　岩崎鐵次郎

印刷者　東京京橋區采女町十番地　木村榮吉

印刷所　東京京橋區采女町九番地　文英社

發兌元　東京市神田區鍋町二十一番地　大學館
電話本局三〇六七番
振替貯金口座番號四五一七

新春の讀物 家庭の珍書!!!!

歌かるた取方と百人一首講義

川村花曉君著

價十五錢 郵稅四錢

はしがきには百人一首の由來について悉しく記述し前編と後編に分ち前編には百人一首を一首宛、叮寧に講述し、後編には戰爭の極意として暗誦の方法博習の方法、盤面排列圖、牌札の圖面、符合の暗誦を述べ、排列法、陣立、策戰計畫、取り方、迅速を要すること、親和力等に分ち更に各々數節に渉りて詳述せる未だ曾て類を見ぬ珍書なり。世の源氏方の學生平家方の令嬢諸君は是非一本を購うて戰場に相見ゆるの時の準備をせられよ。

薩摩琵琶歌集

東京薩摩琵琶歌合編

前編 琵琶歌ヨリ琵琶、曲譜の解說
後編 歌集ヨリ六十八種

價十五錢 郵稅四錢

謎と一口噺

新案滑稽

曾呂利遊左衛門著

價十五錢 郵稅四錢

福引博士

景品類題

川村花曉君著

價十三錢 郵稅四錢

福引の本は世間に澤山あつてどれを見ても籤を先にして景品を後に說いてあるが此の書は福引催主の爲めに最も便利の爲めに著はしたのであるから先づ第一に景品を二十部門例へば日用品、文房具、荒物、玩具、菓子、飲食品、化粧品、衣類、青物、陶器、繪畫、寫眞、圖書、雜誌等に別ちて列擧し、說明並に籤の作りかたについて數百題を述べてある、其他空籤、復景品等福引を行ふに就いての注意準備に漏れなく記載したる新案實用的の福引書である。

遊藝博士

集會餘興

すみれ小史著

價十五錢 郵稅四錢

川村花曉居著

百人一首「トランプ」必勝秘訣

價十五錢 郵稅四錢

前編「トランプ」の秘訣＝「トランプ」の種類とその秘訣＝畫取、二十一點、點取りダブルイナス、引合せ、ナポレオン、銀行術、受け合せ。

後編百人一首必勝秘訣＝百人一首の性質秘訣の第一暗誦法、第二練習法、第三排列法、第四排列の注意、第五見方、第六取方、第七お手附の注意、第八誤り易き牌札、やく札、伏牌札、ゲームの種類、牌札製造法。

川村花曉居著

家庭遊戲博士

價十五錢 郵稅四錢

本書は家庭に於て行ふに最も適當なる遊戲の種類を網羅し其方法を平易に說明せるものなり、行軍將棋、名指、萬國古物博覽會、碼引會、飛雙六、廻雙六、規案學生生活雙六、玉突、餅引、煎餅割、菓子の食取、かるた會等十數種の遊戲に就きて說述したれば新春の集會に喝采を博せんと欲するの士は須く本書を一讀せざる可からず

昇天齋一旭著

西洋奇術自在

價二十錢 郵稅四錢

篠原嶺葉君著

百戰百勝 歌かるた博士

價十錢 郵稅二錢

◎かるた遊技に缺くべからざるもの、●歌かるたの札、札の類、材料、寸法、書体標準かるたに就て、●讀人＝讀人の數＝讀人の心得位置、讀方、讀む間の注意＝讀人の交替◎取人＝取人の數、數組の札を用ふる場合、取人の心得、取人の姿勢、手の位置、動作の注意、勝敗を決する方法、勝敗終局間障の注意、歌技前の注意、攻撃と防禦、取方、掛聲、掛聲の注意●分類幷に排列法＝分類、分類の標準、上の句起字の異同に依る分類、各部類に屬する歌、上の句に依る排列の例、排列に就ての注意、羅馬綴に依る排列上の句頭字の分類、羅馬綴に依る排列の例、下の句の頭字の異同に依る分類、各部類に屬する下の句の歌、下の句に依る排列の例◎役札＝雲月花、戀人、三大役札◎練習法＝和歌の暗記、取方の練習◎雜感＝燈火に就て審判者

すみれ小史述

素人に出来る

餘興種本

價二十錢
郵税四錢

——（目　次）——

◎滑稽大學（滑稽問答）
◎天下一品 島國古物 大博覽會
◎種明し手品
一、烟管の奇術　一、糸の中斷
一、かるたの當物　一、トランプの當物
一、頓智のかるた術　一、コップの奇術
一、紙幣燒の奇術
◎椅子取
◎座敷劇
一、德政（一）宿屋玄關先
（二）同客座敷　學校賬　學校門前の場
一、筆稽當學校賬
一、新苅萱袂紗　詫住居の悲運　高野山の時雨
◎小供の餘興＝客指○電話○教育碁遊
◎お伽話＝細川敷浪○クリスマスの前夜
◎失戀行列＝假裝行列
◎活人畫
◎人造蓄音機
◎篠葉土產寶の福引
滑稽新籤百五十本　景品、說明

すみれ小史著

新案 ハイカラ

滑稽福引大會

正價二十錢　郵税四錢

部門を、花づくしの名に分ちて、種類を、川柳福引、ハイカラ福引、遊藝に關する福引、食物の福引、嗜好物の福引、衣裳の福引、戰爭の福引、景物に關する福引、滑稽福引、家庭の福引、空の福引、歌句の福引、雜くさに分ちたる新案無類の福引書也、

すみれ小史著

滑稽

ハイカラ福引集

正價十八錢　郵税四錢

緒言には、本書の理想、福引の流行、集會の餘興、福引の功用、緣起物、本書の分類、說明書の態度、先づ注意、景品につい（價値、擇一三錢均一、籤の作りかた、福引袋、臨機應變の方、福引會、雜籤の注意、思想の交換、賞品等を擧げて詳述し、庭福引、房具に關する福引、和歌俳句に關する福引、學藝ハイカラ、フクピキ、空の福引、戰爭福引、雜くじ景品說明とその態度の部門に分ちたり、

266
717

花曉小史編

新式 抱腹絶倒福引大全

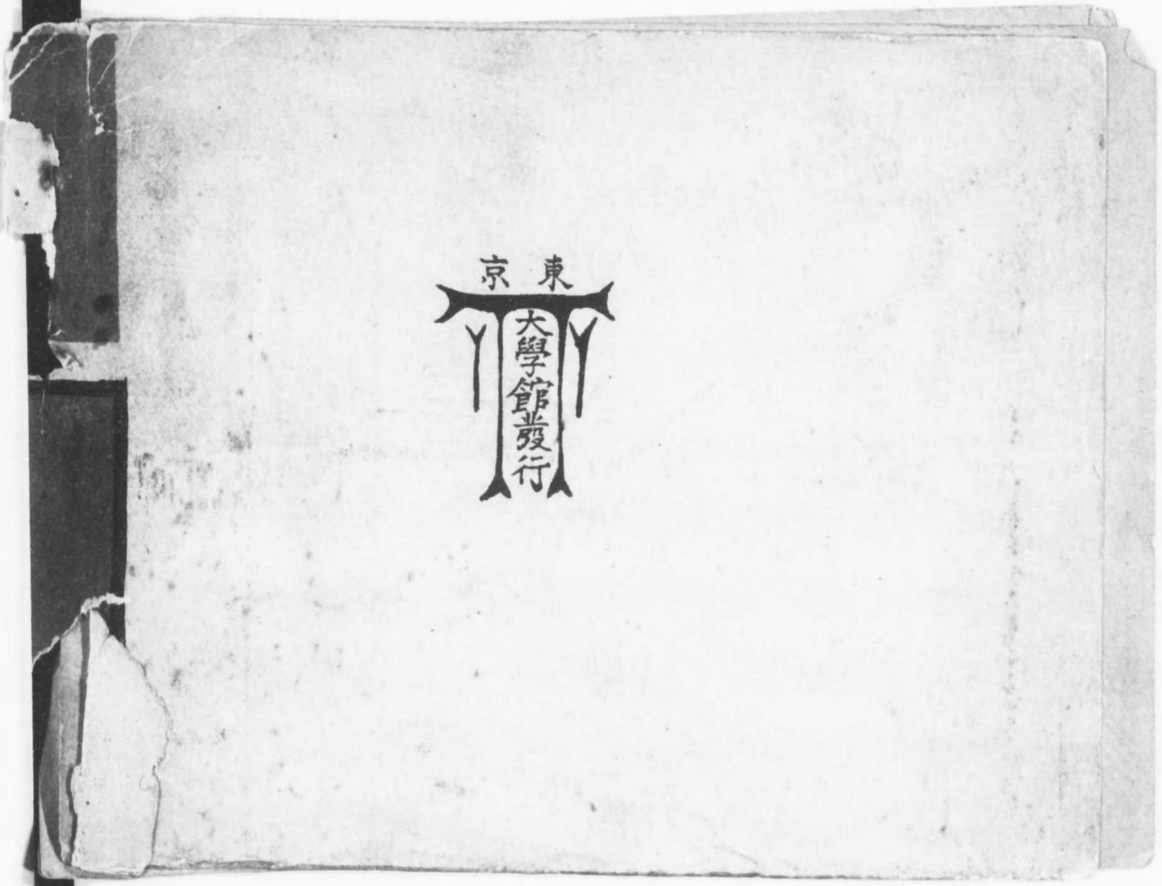
正價二十錢　郵税四錢

目次を春の卷、夏の卷、秋の卷、冬の卷、家庭の卷、ハイカラの卷、文房具の卷、學事の卷、飲食物の卷、演藝の卷、容籤の卷、雜籤の卷、等の新式なる部類に分ちたる斬新奇拔の福引書也、

すみれ小史著

抱腹絶倒 大笑福引集

正價二十錢　郵税四錢

團欒の夢、人生の行路上下、運命の解決、柳樽、へなぶり福引、社會人事等の部門に分ちて千有餘の奇拔なる新題を網羅したる無比の福引書也、

終